

京古本や往来

わたしの古書遍歴

小林龍馬

わたしが古書店まわりを始めたのは戦後、間なしのことである。もともと子供の頃にも古書店へは出入りしていた。当時、東山の今熊野という所に住んでいたが、この地域にも三・四軒の古書店があったと記憶する。現在その一軒は新刊書店となり他は消滅したようだ。少年講談や山中肇太郎の作品、「相模界」という雑誌がねらいで、母に新刊本を買ってもらい、読むと古書店で下取りにとってもらい追いついて、電燈もろくにないのにぶらりと夕方ごろ出掛けた。この頃はまだ十分に本を読む手立ても知らず、手当たり次第に現物を見て、手頃な

値段であれば買い込むことが多く、雑多なものが手許に残った。現在持っているのは二・三六事件関係とキリシタン物位であろう。友人に本の好きな人がいて、この人の影響もあって、歴史小説に興味をもち始め、一時期、鴉外の歴史小説にこったことがあった。歴史と文学の領域をはっきり知りたいたいと思い、蔵原惟人の「文学論」、岩上順一の「歴史文学論」そして小林秀雄の「連の作品など」をこの頃に探し求めて読んでいた。元来、歴史小説や社会小説に深い関心をもっているのも、子供の頃の講談本とこの頃の経験によるのかも知れない。

大学では経済学を専攻し、そのための文献を求めるべく社会科学専門の店を訪れる機会が多くなっ

た。西北書店、澤田書店、大学堂書店の各店主と懇意になり、随分と経済学の文献を教えてもらった次第だ。西北書店の塩谷氏などはわたしが持つていない本があると大いに買うことを勧められた。それらが後に役立っている。また学生時代にはおかねがなく買った本を売ったり、さらに買戻したり何度となくした。その最たるものがマーシャルの『経済学原理』四冊本で澤田書店との間を三・四回往復している。

最近、大学堂書店が店を改築されたが、昭和二十七年頃の同店宛のわたしの葉書が二葉見付かったと聞き、内心ドキッとした。当時の金額で三千円もしたヒルファードインクの『金融資本論』林要譯の代金を分割にして欲しいという依頼の内容であった。ほっとした。このように昭和二十年代から三十年代にかけて、経済学に関する文献をやたらと買ってあり、それらは現在、わたしの書庫に眠っている。洋書も丸善や大丸洋書部で注文しては買い求めている。しかし、体系的に良書を買いたいそろえた

季刊
第24号
京都古書研究会
発行

〒604	京都市中角区	ル内	2	円
京都市	東洞院	角上	1	30
京都市	東古	角上	1	30
振替	京都	2	2	50
年間購読料				
送料				
領 価			1	50

かと云えば、甚だ疑問であり、書庫を見て人は笑われるのであろう。古本あさりに関眼を与えて下さった方の中で特に次のお二方には深謝をせねばならない。一人は元同志社総長、住谷悦治先生ともう一人は現京都大学教授、小野一一郎先生である。

住谷先生との出合いは、下鴨のある教会で、そのむかし日本を初空襲したドーリットル爆撃隊員で帰途中国で不時着して捕虜になり、戦後、宣教師として訪日したヤコブ・デシーザー師の話の聞きに行つたとき、たまたま先生と同席させていただいた。同席しただけでは不明であるが、わたしが手にした本が先生の『社会思想史』であった。それが目に止まり、帰り道先生のお宅を訪問、その本に佐藤一斎の詩を書いていたのがキッカである。

先生はかなりの蔵書家で、学問のこと以外にいろいろの本のことを教えて下さった。先生のお書きになった書物はほとんど「署名や折にふれての詩や句などを書いて頂戴している。石川三四郎の『波』、坂本勝さんの諸作品、その他二冊あると必ず一冊はわたしに与えられた。先生の名著『リストの国民主義経済学』などは先生ご自身、松山の古書店で買われたものを贈って下さった。今も大切に保存している。

小野先生はいつか本紙巻頭で「

ロンドンの古本屋」について紹介されているが、昭和三十九年以来折にふれているいろいろのことを教えて下さっている。京大での研究会の帰りにはお供をして百万辺や北白川辺りの古書店を散策、訪問、店頭で現物を示して貴重な文献を教えて下さり、古書あさりの妙味を味わっていた。いた。今でも思い出すのはモールトンの『日本財政経済論』でこの本の存在を教えられた。その他有益な文献を教示されたのも数多くある。日本の金融史に関する貴重な文献の存在もその多くは先生の懇切な指導によるもので大いに感謝している。

(筆者は立命館大学経営学部教授 金融論 担当)

「本を大切にしよう展」と

古本大即賣會

昭和59年5月2日(水)~5日(土)祝
京都市勧業館 (岡崎公園内)

顛想 (四)

徒然草を読むとはどういうことか
— 兼好自己体験文段の
事態構成について (1) —

雙岡散史

事態の真想というものは可及的に具体に即して考えねばならぬ。本考は兼好が自らの体験を叙述した文段として「四一・四二」の両段をとり上げ彼の体験の真相を究明せんとする一つの試論である。この両段の如き、それが作者の切実な「体験告白」であるに拘らず徒然の研究でこれに触れたものが見られない。尤もこの種の考察は推定に基くとは云え、とかく臆断の危険にはさらされやすい。然し研究を推進せしめる為にはその危険を恐れずしてはなるまい。私の試みた事態構成も或は失考を犯しているような所がないとは断言の限りでないとして研究に「方向」を誤っているものではないと確信している。今の徒然草研究界に最も欠けているのはこういう実証法に意欲を燃やす学者が皆無に近いということではなからうか。

悲田院の堯蓮上人は、俗姓は三浦の某とかや、双なき武者なり。ふるさとの人の来りて物語すとて、「吾妻人こそ、言ひつる事は頼ま

るれ。都の人は、ことうけのみよくて、実なし」と言ひしを、聖、「それはさこそおほすらめども、おのれは都に久しく住みて、馴れて見待るに、人の心劣れりとは思ひ侍らず。なべて心柔らかに、情あるゆゑに、人の言ふほどの事、けやけく否びがたくて、よろづえ言ひ放たず、心弱くことうけしつ。偽りせんとは思はねど、乏しくかはぬ人のみあれば、おのづから、本意通らぬ事多かるべし。吾妻人は、わが方なれど、げには心の色なく、情けおくれ、ひとへにすぐよかなるものなれば、初めより否と言ひてやみぬ。賑はひ豊かなれば、人には頼まるぞかし」と、ことわられ侍りしこそ、この聖、声うちゆがみ、あらあらしくて、

聖教の細やかなる理、いと弁へすもやと思ひしに、この一言の後、心にくくなりて、多かる中に寺をも住持せらるるは、かく柔らぎたる所ありて、その益もあるにこそと覚え侍りし。(第一四一段)

「悲田院の堯蓮上人」について

は伝未詳とするほかはない。唯彼の出自は関東の豪族三浦氏であり出家以前は武士であった。それも三浦一党の名を辱かしめない「さうなき武者」即ち関東武士の豪の者であったことは事実として認めねばなるまい。そういう彼を頼つて上洛した「ふるさと人」某がいる。堯蓮の郷党の一人であり「関東武士」であつたらうことは想像にかたくはない。

それに私がこゝで確かに言えることは行文の筆致からして本段に寸描された一場の諍論の情景には作者兼好も亦加わつており彼は自らの体験を踏まえてこれを述懐しているのに相違あるまいということだ。即ち本文段の事態は堯蓮を頼つて上洛した郷党の武士、それに兼好が加わつての三者鼎談という形で行われたものと思われ。この想定に対する林瑞栄氏の所謂「徒然草の兼好関東武家出生説」の否定にもつながら極めて重要な意味をもつに至るものであろう。もしこの推定の何処かに矛盾を来すようなことがあれば私の推理は根柢から覆えらざるを得なくなるが、そのようなことはよもや起るまいと些か自信を以て本文段を読んだつもりである。

先にも触れた如く、本段は三者鼎談であるにも拘らず、兼好の発言は見られず又その立場も必ずしも明確ではない。これは一体どう

いうことなのだろうか。諍論が行われたのは堯蓮とその郷党即ち武士の間に於てであり兼好はこれに對して寸毫も口を入れていない。私は先に兼好の自己体験を記したのが行文の筆致から推定できるとした。自身も加わつた鼎談なら彼も一言あつてよさそうだが、それにも拘らず、その兼好にして武士の京人批判、いや京人に対する感情的な非難に對し兼好の言が記されていないのは何故か。これは確かに一つの問題とならう。然しこの問題への解答は簡単に推定できるのではないか。堯蓮が兼好の言わんとし得ないでいる所を代弁しているからだ。武士の京人非難は何も京人一般に對して放たれたものではなく自らの上洛目的、不首尾に終らせた者が他ならぬ今、眼前に對座している兼好その人だとばかりに當てつけている。つまり武士の京人非難は兼好に對し嫌味を吐いたのであり、極めて身勝手な感情を坂東訛りでブチマケたことにほかならない。「極めて身勝手な」というのは依頼者である己の事は全く棚に上げて置き不首尾の責任は一方的に兼好の側にあるとときめ込んでいるその態度にある。この辺り単細の人間の諍論には何時の場合にも見られる錯乱の論理であらう。

それにこの武士は堯蓮を郷党と認め諍論には必ず自分の側に立つときめてかかっている。そこには

何か甘えのようなものも感じられなくもない。この一人よがりの独断に甘えを含めて私はこの武士の態度を「極めて身勝手な」と評して強ち不当な見方だとは思わない。諍論が鼎談の形で行われる場合対決が二対一となつては一者に分が悪いのはわかり切っている。もしこの一者が京人兼好であれば兼好は感情をたかぶらせた吾妻人二人によつて非難の矢表に立たされた形にならう。こうした場合論の是非はもはや問題ではない感情論が形の上では勝ちを制する。これは世上一般の論争にも見られる所であり、この場合も事態は大同小異であらう。これまで「吾妻人堯蓮」一種の不信感を抱き続けて来た京人兼好は窮地に立たざるを得なくなつた。兼好は直前それを感じとり背筋を寒くした事であらう。

一種独異な三角関係。そういう見方も出来るかも知れない。所が事態は吾妻人の思わく、そして又兼好の思わくをも裏切つて両人の意想外に展開した。堯蓮は兼好の身方だつたのだ。

以上私は兼好を京人と想定しながら論を進めて来たわけだが、こういう私の論法に独断の臭気を感じる人があるかも知れない。私自身も舌足らずのもどかしさを感じていることは否定しない。然し今はそれに耐えてでも論を進めねばならぬ。

此の辺で私見による如上の推定

を整理すれば凡そ次のような事態構成となる。

もと関東武士の豪者であった「悲田院の堯運」は上落し既に幾歳月の長期を経ていた。今や彼の生活の本拠は京都に移り「悲田院」という特殊な性格をもつ寺院の住職におさまっている。それは勿論彼の実力と積極的な努力が実を結んだからの事であったに相違ない。そうした或年、彼の郷党の武士某が彼を頼り所願を持って彼の所にころがり込んで来た。所願即ちその武士の切実な願望は相当な難事であり、且堯運の社会的立場からすれば些かお門ちがいの願望でもあったようだ。彼は困った。さりとて我身を信頼して上洛して来た者をステナク関東の地に追帰すわけにもいかない。思案の挙句思いついたのが兼好の存在である。

彼は既に兼好とは面識の間柄であった。あの兼好に合力を求めたなら或は事がうまく運ぶかも知れない。そう考えた堯運は武士を伴い兼好の許を訪れ事の仔細を物語り一臂の助力を懇望に及んだというわけである。京人兼好はこの又頼みを内心困った相談だとは思った。然しそれを無下には断りかねた。「心弱くも」ともかく私の出来る範囲のことはやってみましょうというようなことになってしまった。決して快諾したわけではない。兼好にしてみれば、相手が堯運ならば致し方もないことだと思つ程度

の因縁があったにちがいない。しかしそれとて何も全力をあげて犬馬の勞をとらねばならぬという程の筋合のものではない。まして郷党の武士に対しては何の義理もあつたわけではない。一応の手続きは踏んだであろうがそれまでのことで終つたと考えてよからう。一方京人兼好に過剰な期待をかけたのは武士の方であり溺れる者が堯をも把むあの心理であろう。武士はその間悲田院に臥伏しながら一日千秋の思いで兼好からの色よい伝言を鶴首したにちがいない。所がねつからそれが来ない。とうとうシビレを切りし堯運と共に再度兼好の許を訪れる。そして結局は事の不首尾を知らされることになった。それが本文の真相ではなかつたらうか。単細の人間の常として憤懣やる方なさを京人兼好に叩きつけるに京人一般への不信感を以てした。「吾妻人こそ、言ひつる事は頼まるれ。都の人は、ことうけのみよくて、実なし」という言評には此時の武士の憤懣やる方なさがよく出ている。兎も角受諾の形に受けざるを得なかつた兼好の消極的な立場を想像すると此の一件どうも何か「裏口工作」の性格がかなり強く匂つて来る。

扱 事態構成と云つてもこれだけの事だ。然し私は何も本段を独立した一文段と見なしそこからのみ事態の組立てを行つたわけではない。本稿を書きながら私の脳裏

にはあれこれ雑多な他の想念も錯綜するのだ。僅かこれだけの事態構成の一試論と云つてしまえばそれまでの事も知れない。然しこの一試論の中には林説の「兼好関東武家出生説」を否定するに足る何か強く示唆されている。堯運もそして武士も関東生れの人間として兼好を京人と考えているのは確かだ。彼らは兼好を目するに決して「ふるさと人」即ち関東生れ武家育ちの人間だなどは寸毫も考えていない。

この解釈で私が林説否定の契機として最も力説し指摘したいのは兼好の「関東訛り」に対する嫌悪感の問題だ。

「京人兼好」であつたればこそ関東武家出身の堯運の人間像を描いて「この聖、声うちゆがみ、荒々しくて、聖教のこまやかなる理、いとわきまへずもやと思ひしに」と感想を述べている。これは兼好が「京都生れの公家育ち」の人間であつたればこそはじめ書き得た感想でなくてはなるまい。恐らくこの坂東訛りに対する兼好の嫌悪感に堯運との初対面以来の印象に根ざしたものだつたに相違ない。兼好は「東夷」嫌いなのだ。第一一七段でも「友とするにわるき者」の中に「たけく勇める兵」を挙げ「東夷」が口にする「坂東訛り」には辟易したらしい。所が堯運には特にそれがひどかつた。そうい

う兼好の人間像を目して林説は「関東生れの武家育ち」だとする。徒然草自体が表現している感性からして果してそれが妥当なものであろうか。私には問題なきを得ない。

所では本考の推理過程で「ふるさと」と「訛り」の連想からふと石川啄木の歌を思い出した「ふるさとの訛り懐かし停車場の人込みの中にそを聞きに行く」という周知の歌である。その啄木は「石をもて追る、如く故郷」の地を去らねばならなかつた薄幸の人でもあつた。そういう人にしてなお故郷への慕情は切なくつるのだ。

関東武家を出自とし都に出て幾年月を経てなお生地を押し通す堯運。その堯運と出自を同じくするという林説の兼好。これはどう考えても少しおかしい。いや少し所ではない。「林説の兼好」と「徒然草の兼好」とは果して金沢文庫古文書という名の接着剤を以てして美事な符合の成果を万人に納得せしめ得る日が来るのであろうか。もはや私は多くを語る必要はなからう。水と油はいかに攪拌しようとも必ず反発し分離する。

林説については「ふるさと」の語義についても一言しておかねばなるまい。林氏は此の語義を「出生地」と限定しているが果してそれでよいのであろうか。現代でこそ「故郷」は「出生地」の意に限定されてしまった感が強いが、兼

好が生きた時代は「中世」であつて「現代」ではない。こんなことは言わでもの事も言わねばならぬような所が林説では犯されている。これは明らかに初歩的ミスだ。兼好が中世の作家なら「ふるさと」の語義も彼の生きた中世の時代に即して理解すべきであり之を現代的に解してかゝるのは危険である。徒然草や兼好家集乃至は兼好自筆書状に見えている「ふるさと」「故郷」の語を考ふる場合はよほど慎重な用意を以て考察に臨まねば事態構成の問題に紛糾を招く恐れがあるという事だ。

およそ学者の犯す失考にも種々相が見られよう。問題はその失考の質にある。私が前三稿で問題点を批判したのは何れも「初歩的ミス」についてであつた。「初歩的」は「基本的」と換言してもよい。私にはもはや林説や二部説によつては徒然草は読めないのではないかと思われる。何れもが論者の言語感覚に問題点を指摘せざるを得なくなるからだ。これは一体どういふことなのか。虚構が「実証の仮面」をかぶつて「ウルトラCの妙技」を競い学界の風潮に主導権の掌握を目指している。どうもそのような所が見られる。これは座視してすませる問題ではあるまい(三月廿一日稿・以下次号)

歌舞伎通史の形成

「歌舞伎事始」の場合(一)

広瀬千紗子

一

歌舞伎の成立史を考えると、
 実証的な研究の進んだこんにちで
 さえ、なお不分明な部分を残し、
 伝説的な域にとどまっている事象
 が少なくないのであるから、江戸
 時代の考証において歌舞伎が採り
 上げられたとしても、こんにちの
 水準からみて、その信憑性が心も
 となくみえるのは、やむを得ない
 ことであろう。しかしながら、当
 時の人々にとっては、歌舞伎は未
 だ保護されるべき伝統芸術などは
 なく、いわば現役の、同時代演劇
 であった。言うまでもないことだ
 が、これは我々が現在の歌舞伎に
 接する場合と、決定的に異なっ
 ている点である。とすれば、その発
 祥が問題にされるときも、同時代
 にはたらかかせる演劇が快速に存
 在するための、時代の要請という
 ものを、おのづから背後に負うて
 いたのである。それが虚実の入り
 まじった諸説を生み、時には客観
 性を欠く記述となつて、現在まで
 伝えられることになつたと、おほ
 むね言えようかと思う。

例えば、江戸時代中期をとつて
 みれば、歌舞伎の座はすでに新興
 芸団ではなく、発祥以来百年を超
 える歴史を持ってしまつていたが、
 社会的には遊里とならんで「悪所」
 というべき立場におかれていた。
 また演劇としては人形浄瑠璃の、
 折から抬頭して来た人気にも互し
 て行かねばならなかつた。時代の
 要請とは、少くとも歌舞伎の側か
 ら言えば、このような状況の下に
 あつたが故に、自らの正統性を必
 要とした、そのことであつた。

江戸時代初期においては、歌舞
 伎の発祥を尋ねる試みは、もっぱ
 ら「出雲のお国」や「名古屋山三
 郎(あるいは名護屋(三右衛門))」の
 行状を詮索するという形をとつて
 行なわれた。いわゆる「お国山三
 伝説」の形成に寄与もしくはこれ
 を踏襲し、さらに流布せしめても
 いたのである。むしろ、その結果
 として多くの伝承資料を成立期の
 歌舞伎史上に提供することになつ
 た、というのが実情に近からう。

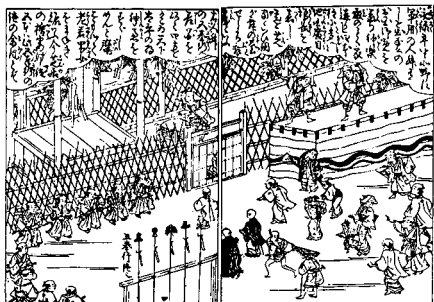
二

ところで、記録にあらわれるお
 国の初見は、『多聞院日記』天正
 十年五月十八日条で、奈良の春日
 若宮拝殿の法要に、八才の加賀と
 十一才の国という、二人の童女が
 「や、こおとり」と称する稚児の
 踊りを演じたというものである。
 お国は、この時十一才の童女とし
 て、はじめて史上に姿をみせたの
 であつた。また、お国という名前
 がこも明記されてはいないが、『言
 経卿記』天正十六年二月十六日条
 の、「出雲国大社女神子、色々神
 歌又小歌等舞」という記事によつ
 て、出雲大社の女神子を名乗る芸
 能者が上洛し、堂上家へ出入りし
 ていたことが明らかであり、『時
 慶卿記』慶長五年七月一日条には
 「近衛殿ニテ晩迄雲州ノヤヤコ跳
 一人ハクニト云、菊ト二人、其外
 座ノ衆男女十人計在之」とみえて、
 「クニ」が「雲州ノヤヤコ跳」の
 一座に属して移動する芸人であつ
 たことを知る。そして慶長八年五
 月六日の女院御所におけるお国の
 踊りを、『御湯殿上日記』と「時
 慶卿記」が「や、こおとり」と記
 したその同じ時、同じものを「慶
 長日伴録」は「かぶきおとり」と
 記している。この記事が、実は歌
 舞伎の発祥である「かぶき踊り」
 の初見史料なのであり、慶長八年
 という年にしてようやく「出雲」
 と「お国」と「かぶき踊り」がひ
 とつになつて登場してくるのであ
 る。歌舞伎の始祖「出雲のお国」

について、
 正確な記録が語つて
 いるのは、
 これ位のものである。
 その
 周辺には、
 あまたのお
 国像が
 えがかれて
 いるとい
 うわけ
 である。

一方、「山三」の方はというと、
 「お国」や「かぶき踊り」に関す
 る記録類には一向にあらわれてこ
 ない。お国との関わりを確かめ得
 るものも、何もないのである。に
 もかかわらず、後世の仮託によつ
 て名古屋山三郎はお国に密通した
 と伝えられ、共に歌舞伎発祥譚の
 主人公とされてきた。「お国山三
 伝説」は、事実関係がつかめない
 ままに連綿として流布してきたの
 であつたが、室木弥太郎「なごや
 山三郎に関する一、三の問題につ
 いて」(『国語と国文学』昭和三十
 一年十一月)が発表されるに及んで、
 実在する「山三」像というものが、
 浮かび上つてきたのである。

山三は、加賀藩名越家の出身で、
 蒲生氏郷の奥州攻めに従つた美男
 の小姓であつたが、のち森美作守
 忠政に仕え、慶長八年に藩士との
 刃傷沙汰の末、作州津山の地に没
 している。これらの事蹟によつて、
 いわゆるかぶき者としての逸話は
 残したが、お国とは全く無関係な
 一生であつたことが明らかになれ
 たのである。それ以来、両人はま
 さに伝説上の人物同士として、虚
 構のなかでのみ結びつけられてい
 た、とするのが今や定説となつて
 いる。



「歌舞伎事始」巻之二

永禄年中、北野に軍用の人形
 有しを、出雲のお国御免を蒙
 り、神楽殿のことく家造りし、
 四本柱に多門、地国、広目、
 増長を表し、是を芝家といひ、
 国が舞の台せしより舞台とい
 ふ。右、人形の五奉行差図を
 以て四方をかこる、天下太
 平の為、神慮をすしめんと、
 摩をもつて老若男女をまねき
 賑ハふ。今芝居の櫓にあげし
 鐘五本ハ此五奉行の鐘の余風
 とぞ。

これをふまえた服部幸雄「阿国
 山三伝説の発生と成長」(『歌舞伎
 成立の研究』所収、昭和四十三年、
 風間書房)では、お国山三に関す
 る諸説は系統別に整理され、その

系統にしたがっておよそ三類に分類された。すなわち、お国だけの伝説、お国山三双方が関わる伝説、お国とも歌舞伎とも無関係な、実在の名越山三郎に端を発する伝説以上の三類である。この分類によれば、「お国山三伝説」が歌舞伎の発祥譚としても語られるのは、前二者のみということになる。

三

今、歌舞伎の発祥に関するものに限ってみれば、服部氏が前掲論文で示された資料群は、文中をのぞいて、末尾に添えられた表に掲げられた分だけでも二十点を数える。それらは、お国だけが登場するものをA類として、『東海道名所記』『慶長秘聞集』『慶長見聞集』『当代記』『慶長見聞録』『羅山文集』『野槌』『京童』『色道大鏡』をあげ、お国山三双方が登場するものをB類として、『懷橘談』『和事始』『近代世事談』『雍州府志』『翁草』『古今役者大全』『歌舞伎事始』『貞丈雜記』『見聞談叢』『事跡合考』『慶長年録』があげられているのである。一見してわかるように、これらの資料の性格はA・B両群とも多様で、記録、紀行文、地誌、隨筆、劇書と広範囲にわたっている。各書はそれぞれに別個の意図を持って著わされているが、いずれもお国かお国と山三にかふれるところがある

のために、ここに集められることになったのである。したがって、各書の歌舞伎発祥譚の扱い方も、また区々である。しかしながら、そのなかにも、他の多くの見聞の一端として、お国や山三の行状が書き留められたのか、それとも一書もしくは一書のある部分を割いて、歌舞伎の発祥以来の通史を叙述しようという構想のものか、お国や山三が扱われているのか、といううちは大きいと言わねばなるまい。

このような観点からさきの資料群を見直すならば、まがりなりにも歌舞伎通史をまくろむものは、『古今役者大全』巻一の一部を、『歌舞伎事始』巻一である。この二書は、いわゆる劇書であって、他の資料群が歌舞伎に言及する場合とは、いささか事情を異にしているのである。すなわち、両書ともに、歌舞伎それ自体を概説する目的で編まれており、殊に『歌舞伎事始』の方は、その書名からも察せられる通り、歌舞伎に関する諸般の事物起源を説くものであつて、その枠組のなかでの歌舞伎発祥譚である点において、他と同列ではなく、あらためて所説を検討してみる必要があるように思われる。服部氏前掲論文においても、『歌舞伎事始』に言及し、同書の所説のあざやかさを分析され、かつ『雍州府志』系から派生したのである。この指摘もなされている

が、小稿ではさらに、「派生」というよりは、いますし密接な『雍州府志』との関係を明らかにしつつ、主として『歌舞伎事始』に述べられた歌舞伎通史のあり方をさぐってみたいと思う。

四

元禄期に入つて役者評判記の定期的な刊行がはじまり、その蓄積にもとづいた『古今役者大全』が寛延三年に出版されて、八文字屋版劇書という格好の場が用意されたとき、歌舞伎の発祥に関する考証は、あらたな段階をむかえることになったと言えらる。劇書の場矢である『古今役者大全』は、この点についても先鞭をつけているが、八文字屋にとつて第二作目の劇書である『歌舞伎事始』は、歌舞伎の起源と来歴を説くことを第一義の課題とした、おそらく最初の書である。そして従来の諸説間に見られた『お国山三伝説』の齟齬を、『歌舞伎事始』の独自の解釈によつて、見事に解決してしまつたのである。その意味では、まことに画期的な、わが国初の歌舞伎通史が書かれたわけであるが、残念ながら、これは史実とは明白に異なっている。その最たる誤りは、お国の出現を史実より約二十年早くであり、そこから生ずる誤差もいくらか散見される。そのため、本

書は歌舞伎研究において、しばしば引用されているにもかかわらず、いざとなると決定材料とはなり得ず、ながく疑問視されてきたのであつた。たしかに、こんにち本書の不備を言うのは容易でさえあるだろうが、そもそも歴史史料として記録されたでもない書に、虚構が含まれていることを嘆いてみても、ほとんど意味はない。それよりも、創意のあることをむしろ是として、しかしあながち史実を無視しているのでもない、その微妙な編集態度を、問題にしたい。

『歌舞伎事始』、中本、五卷五冊、宝暦十二年正月、京麩屋町誓願寺下町、八文字屋八左衛門板「かぶきじし」と読む。著者は為永一蝶。一蝶は、本書巻五「狂言作者名人」の項の末尾に、わずかに竹田出雲の弟子為永千蝶より、「作者の秘事」なるものを譲られたと記すばかりで、詳しいことは判らない。千蝶は、浄瑠璃作者であつたが延享以後に歌舞伎作者に転じたとされており、一蝶にとつては師にあたるのであろう。ちなみに、一蝶の俳名を持つ役者に中山新九郎が居るが、両人はおそらく無縁である。また、八文字屋八左衛門は、西鶴以後の浮世草子出版で知られた書肆であるが、かわら、役者評判記の独占的な出版幕末までの劇評を主導した。劇書はこのような書肆において、演劇

の側に立って、あらたに開拓された出版分野であり、本書はそのなかでも特異な位置をしめている。なお五代続いた八文字屋八左衛門については、かつて本誌第十号(昭和五十五年十月十五日)に、宗政五十緒氏が連載されていた「近世京都の本屋(六)」で一項を設け、詳しく述べておられるので、参照されたり。では、まず本書の「凡例」を手がかりに、内容について考えてみることにする。(以下次号)

筆者紹介

- 一九四八年、京都市生。
- 立命館大学大学院文学研究科、日本文学専攻、修士課程修了。
- 愛知女子短期大学、人文学科専任講師。
- 主要論著

「八文字屋系劇書の成立——新撰古今役者大全をめぐる」
 『芸能史研究』四九五号、昭和四九年四月。
 『家元制度研究史叢書』(共著、歴史公論)昭和五三年四月、雄山閣出版。



古書のコンディション

シルヴァン書房 岸本征夫

古書業界にあって近年特に目録販売に積極的な試みをしている傾向が見受けられますが、確かに遠隔の顧客との接点を求め、より多くの方々に古書の面白さを知っていただく上には有効な方法でありましょう。ただ、やはり百聞一見に然らず、いや百読一見に然らずと申しましょうか、その書物を実際に手に取って確かめるのではありますので、購入にあたって、顧客の決断には相当な決意が含まれていいます。比較的近在であれば、出向いて行って在庫の確認をして納得して購入する事も可能なのですが、多くの方は業者を信頼して、発注されるのですから、当然目録発行者は充分注意して、正確な記述をしなければなりません。ともしれば期日に拘り、紙面の節約を考えるのが常の我々ですが、反省すべき点です。

我々洋古書店の場合も例外でなく、特に外国では店舗を出さず大きな事務所、倉庫で在庫を整理し定期的に見事に充実した目録を発行し、世界の図書館、専門家、そして愛書家を顧客に永年に亘り営

業をしている書店も多くあります。古書はその内容の重要性は勿論ですが、そのコンディションも見のがせない価値と見ます。その装丁が手にした人の美意識を刺激し愛着となつて大切にされるのではないのでしょうか。華装、天金、特製紙、限定版、私家版、署名入等多くの説明をカタログ中に見い出します。そして又、コンディション

の説明も通常、末尾に記されています。(別表参照)これらを注意深く見て、顧客は購入するのですが、届いた書物を見て「やはり値段は安かったが、ひどいコンディションだ。」とがっかりしたり、「この書店の本は少々割高だがいつも申し分のない程、良いコンディションだ。」と感心し、満足する。この繰返しがその書店の信用と実績になつて現われてくると思いますが。同じグッドコンディションの表記であつても、各書店で、相当差異のある時もあります。その店主の主観によつて価格設定が為される以上止むを得ないのでしようか。仲々同一基準のコンディション表示は難しいと思ひますが或

る程度、誰が見ても納得の出来る基準表示方法を考へても良いのではと考へます。又、我々古書業者にとつて、古書のコンディションの保持と補修は重要な仕事です。先の所有者から次の所有者への橋渡しをする中で、少しでもそのコンディションの良さを保ちつづける事は我々の義務であります。ダメージのきつい本を入手した折は製本所にお願ひして再製本する訳ですが、一般本の製本は何んとか出来るのが、美術書、稀覯本といった種類の装丁をする時に、日本では仲々気軽に相談に乗つていただけける装丁家が少なく悩みの種です。勿論最近になつてばつばつ本格的な洋

書の装丁に関心を持つて技術を習得されて居られる方も増えて来た様に見受けられますので、将来はもつと容易に、改装丁、補修も可能になつてくると期待しています。一方、デイレクター間のコンディションに敏感な態度とは別に、又愛書家にとつても、コンディションの保持に対する心構へは相当なものです。特に高価な書物を手にされる方々は、特別な帙や、ガラスケース、除湿器等を用ひられ保存に努めておられますが、日本の様に湿度の多い国では、特に虫干しが必要とされます。常々読んで居られる書物は適当に風も通り、古めくのも自然な形で成されて行きますが、大切に、大切にしようと思つておかれて、結局はしみや虫喰いで台無しにしてしう事は非常に惜しい事です。是非、年に一度は虫干しをする習慣を身につけたいものです。

勿論、他にも書物取扱上で注意すべき点は、昔より多く語られておりますが、その実践は仲々難かしいのか残念にも、別表に掲げた様な、ダメージの多い古書が出現してくる事になるのです。美しい書物を次の世代へ残して行こうと云う気持の強い、我、古書研メンバーは、五月に岡崎公園で行ないます即売会に於いて、「本を大切に」をメインテーマにして、今回、五月に岡崎で行ないます我、古書研の即売会に於いても「

damaged	破損した
tear	ほこりびた、引き裂け
torn out	引きぬいた
score	傷あと
burn	焼けこげ
cut out	切りぬいた
defect	欠如不足
faded, soiled	古ぼけた
odd (volume)	不揃本、端本
crushed	押しつぶした、ぼろぼろになった。
loose	ほどけた
with corners broken	角の折れた
slightly damaged	少し破損した
faded	色のさめた
worn	痛んだ
yellowed	黄色になった
scratched, rubbed	こすられた
foxing	きつね色に変色、黄色のしみ
spoiled, soiled	刷り損なった
lacking, missing, wanting	不足、欠如
damp stain	しみ、しみがついた
loss of text	本文紛失
weak	弱い
wormed	虫喰いの
foxed	さびのしみのついた
small worm hole	虫喰い穴
dusty	ほこりのかかった
remade, renewed	再製本
unequal margin	不揃いの余白
mutilated	毀損した、不完全にした
made up copy	混成による一組
imitation, copy, fake	偽造
browened	褐色になった
loose in binding 製本のほどけた
with binding loosened	
wrinkled	しわくちゃになった
stamped, tooled	印が押しあて

— ILAB-ABAJ 九ヶ国語「古書業者の為の辞典」より抜粋 —

大切にしよう。をメインテンテ
マにして、古書の保存の再認識を
深める運動を致します。

マイクフィルムやビデオと多
様な知識、情報を得る手段が増え
て参りましたが、やはり、主流は
書物、とりわけ古書は、永年に亘
り知識の源として王座を保って居
ると考える時、その内容と共に、

ABAJ創立二十周年記念

「世界の古書展」便り

キクオ書店 前田 司

世界の古書業者との交流をはか
ることを目的に結成された日本古
書籍商協会（ABAJ）は、本年
二十周年を迎えた。本会は欧米他
現在十七カ国が加盟する世界古書
籍商連盟（ILAB）の傘下にあ
り、日本の会員店は二十六店。そ
のうち東京は十六店、大阪四店、
京都は当古書研究会の会員でもあ
る臨川書店、シルヴァン書店、キ
クオ書店を含め六店が加盟してい
る。

このABAJが創立二十周年を
記念して、去る三月一日より三日
まで東京日比谷の日生会館に於て
「世界の古書」展示即売会を催し
た。本展は第三回であるが、前二
回は百貨店等で従来の即売会形式
で開催されたが、今回は初めての

いつまでも手にとつて、しつとり
とする感觸のものであつて欲しい
と願います。豪華な書物でなく
ても、その書物の持つ味わいを残し
た古書は愛書家にとつてこの上な
い喜びであると信じて別表の様な
ダメージの、出来るだけ少ない本
を願つて郵送されて来たカタログ
を読む昨今です。

試みとして、ILABの国際方式
が採用された。これは各書店ごと
にブース（店舗）を持ち、その内
で各店が各様に特徴を出して商を
する。入場は有料で、来場者はす
べての特物を預けてから入場する。
また出品店連合の目録は、催しの
案内と各店の広告が数頁入った程
度のもので、詳しい出品目録はそ
れぞれの書店より独自に発行され
るといった方式である。

何やら大層堅苦しい即売会のよ
うであるが、欧米ではこれが即売
会（古書展）の普通の形で、廉価
しのコーナーもあり気の張らぬ染
しい催しである。私もロンドンや
オランダの古書展で特価本の中か
らけつこう掘り出しものを見つけ
た思い出がある。それに主要都市

で開かれるこの古書展は地方の書
店を知る絶好のチャンスであり、
この時の縁から以後目録が送られ
るようになることが多く、愛書家
にとつて決して見逃せぬ催しなの
である。

それだけに今回の即売会も、初
の試みではあったが開催前から熱
い期待が寄せられた。

さて日生会館の七階二〇〇坪全
フロアーに会員の二十二店が二つ
の会場にわかれ各ブース夫々に趣
向をこらした店がつくられた。荘
重な革装の古書を並べる洋書店、
書画の軸や屏風をひろげる和本屋
さんとのブースもその店の顔を
演出している。

二十周年を記念する即売会だけ
に質量ともに一流のものであった。
百万塔や古活字本、重要美術品の
「悉曇要抄」、奈良絵「鶴のさう
し」といった白眉の日本の古典籍
をはじめ、福沢諭吉、坂口安吾の
白筆原稿や棟方志功の画冊などが
目につく。そしてなによりも「世
界の古書」展らしく、世界中から
蒐集された稀覯書が並ぶ。例えば
グーテンベルグ「四十二行聖書（
片葉）」、ジョンソン「英語辞典」
スミス「国富論」やリヴァイアサ
スの初版本、ケルムスコットプ
レスやアシエンプレウスなどの世
界三天美書、浮世絵関係欧書コレ
クションやチリメン本、シーボル
ト「日本」の初版など、値段も相
当ながら善段見ること出来ぬも

のだけに、間近に接する絶好の機
会でもあった。また各書店ブース
の一角にはILAB第七回書誌関
係文献コンクルの入選刊行物も
展示され、これも来会者の関心を
引いていた。

関西より参加した十店は、輸送
の関係から多様な品揃えは出来な
かったものの、各店充実した古書
を揃えた。とくに京都古書研の三



趣向をこらした古書店のブースが並ぶ会場

広い会場も連日ムンムンする熱気
が充満した。ほとんどが各書店よ
り招待したお客さんであったが、
五〇〇円を払って入場された方も
数百人あったことをみても、その
人気の程が知れよう。それだけに
本を見る眼はどの方も真剣そのも
の。応接する方にも熱が入り、速
日楽しい古書談義に花が咲いた。
関東の古書展に関西が加わった
ことも、とくに関東の愛書家の皆
さんより新鮮さがあると好評であ
った。また関東では関西の書店を
ご存知ない方も案外多く、イギリ
スの例のように、これを機会に関
西の書店と懇意になつたお客さん
も多かった。

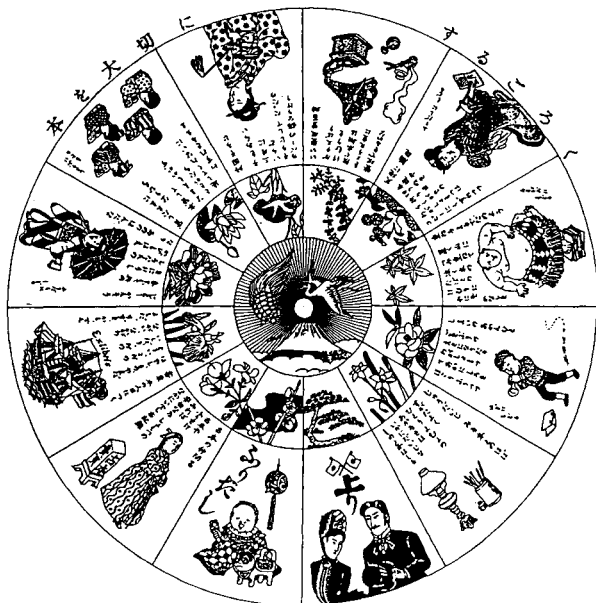
何年か後、またこのような催し
が行なわれることになろうが、よ
り良き古書に接していただくため
にもぜひおいでいただきたいと願
っている。またこうした情報をい
ち早く獲得するためには、日頃の
古書店との往来がなんといつても
一番肝要であろう。

店は、本誌の広告でもお馴染みの京
都書院さんを加えた四店が合同で
自店のブースとは別に「京都連合
会」を設けた。ここでは五山版、
古活字本や京大絵図、解体新書や
訳鍵など主として和書の古典籍を
中心に展示し、京都の古書店を大
いにアピールした。
国立国会図書館々長のテープカ
ットによつて開会。三日間の会期
中、全国から二千人近い来場者で

この即売会に参加した三店の新し
い経験早速生かすことになった。
京都市勧業館の四〇〇坪の大フロ
アーに各書店五社四方のブースが
並び、夫々趣向をこらした店を構
える。また欧米の古書展のよう
に気楽に掘り出し物を探してもら
える楽しい催しになるはずである。

春の大古書展示即賣會

特別コーナー（京都関係書・花と緑・児童書・全集（入札コーナー）



併設
「本を大切にしよう展」

後援 京都市教育委員会

（写真版入豪華目録発行 送料二〇〇円（切手可）
（市バス）京都駅・四条河原町・三条京阪いつでも⑤）

5月2日(水)～5月5日(土) 京都市勧業館(岡崎公園内)

10時～5時 1階400坪大フロアー

主催

京都古書研究会

― 新入会員紹介 ―
文庫堂

京都市上京区大宮通出水下ル
家永町七六二

TEL 八一一七二五九

当店は三年前に開店いたしました全くの素人からの出発で、開店当初は知識不足と忙しさで適正な価格もつけられない状態でした。いま思い返しても冷汗の出る



飛田昭雄氏 (35才)

思いがいたします。もとより本好きで始めた商売ではございますが、

いまだに古書の持つ底知れない恐ろしさに圧倒される毎日です。

恐ろしさを知らず、いづれは面白さに転じられるはずだと信じ、一層の

努力をいたす所存です。特に専門は設けておりません。間口を広く

興味のおもむくまま蒐書するつもりでおります。一年程前より先輩

諸氏の勧めもあり、隔月の古書日録を発行しています。まだ小冊で

品揃え等不備な点、多々ございませ

すが、御客様の御要望をはつきりと

と知ることができ、遠方の御客様との御附合も始まり蒐書の励みとな

っております。四年目を迎えてい

ただき、先輩諸氏の御指導の下、魅力ある古書店を目指し精進して

ゆきたいと心に期しております。どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

― 編集後記 ―

○今年の冬は厳しい寒さが続いた事もあって、特別春が待ち遠しく感じられました。しかし冬が厳しければ厳しい程、春になった時のエネルギーの爆発は凄まじいものがあります。我々古書研も、五月岡崎勧業館にて若いエネルギーを大爆発させるべく、着々と準備中です。でお楽しみに！

○我々は、古本や往来を一方通行の情報紙にしない為、広く読者の声を反映させたく思っておりますので、どんどんとご意見をお寄せ下さい。

○受験シーズン多忙の折、24号編集に御寄稿戴きました小林龍馬氏始め、諸先生方に厚く御礼申し上げます。

○本号より古書研に新会員が加入しました。

飛田氏は、一見物静かで気弱に見えますが仲々どうして、内にフアイトを秘めた、やる気満々の好人物ですので、読者の皆様もご声援の程宜しくお願ひします。

今回の編集者、外山・竹岡・石川・井上・小林でした。

次号予定

「京古本や往来」第二十五号は五十九年七月十五日予定です。

大書堂

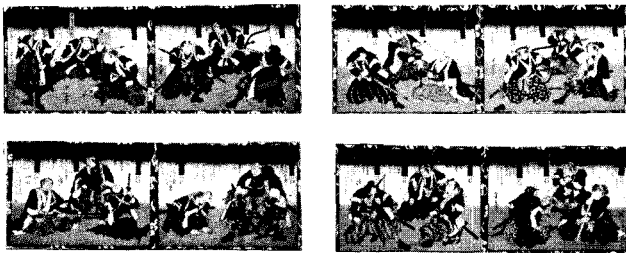
〒604 京都市中京区寺町通錦上ル
電話 (075) 221-0685
振替 京都 3165



徳力富吉郎創作版画 富士三十六景〔徳力先生代表作〕 全36枚(附解説36枚) 箱入 昭和15年刊 ¥360,000



広重 名所江戸百景 木版縮刷(ハガキ大) 全120図(目録共) 6帳
¥150,000



芳年 赤穂四十七士伝 中版 全16図 一帳 ¥130,00円



吟光 古今名婦伝 全30図(目録附) 一帳 ¥250,00円



御注文は各書店へ

〒530 大阪市北区芝田一丁目六番一三号

阪急古書のまち

(株)臨川書店 大阪店

電話(〇六)三七四一三〇〇
振替 京都 八〇〇〇番

営業時間 午前十一時~午後八時 定休日 毎週水曜日

32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1							
両和 大日本史論叢集	日本史の研究 七冊揃	戦後の歴史学と歴史意識	日本史学史	日本国史学発達史	日本史論集 時野谷勝教授退官記念事業会編	日本中世古文书の研究	日本古文書提要 二冊揃	日本古文書学 三冊揃	花押がみ(一)平安時代 東京大学文学部国史研究室編	平戸松浦家資料(少編) 京都大学文学部国史研究室編	博多律要録(一) 西日本文化協会	安芸国土井家作帳の研究	金澤丹後文書 金沢復一編	宮下辨覚文書 菅平研究会	庄屋平兵衛獄門記(引線アリ) 宇野宗佑	大阪菊屋町宗盲人別帳第一巻 宮本又次他編	御觸書集成 五冊揃 岩波書店	後二條師通記 三冊揃 大日本古記録	玉葉 三冊揃 すみや書房	徴古文書(甲集) 黒板勝美編	平安遺文 金石文編 竹内理三編	更訂国史研究年表 黒板勝美編	修正三正綜覽附陰陽曆对照表 内務省地理局編	古事類苑 外交部	古事類苑 帝王部 昭39	延喜式 神祇索引 昭39	六国史 神祇索引 昭47	徳川実紀索引人名篇 二冊揃 国史大系	日本三代実録索引 昭38	公卿補任索引 昭46	尊卑分脉索引 昭39							
大5	昭56	昭43	昭11	昭11	昭50	昭39	昭41	昭46	昭36	昭29	昭51	昭52	昭43	昭51	昭46	昭51	昭53	昭41	昭29	昭40	昭16	昭48	昭42	昭53	昭42	昭39	昭8	昭47	昭38	昭46								
二、八〇〇	五、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	五、五〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、五〇〇	四、八〇〇	一、三〇〇	四、五〇〇	四、五〇〇	一、八〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、五〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	五、三〇〇	六、〇〇〇	七、三〇〇	一、五〇〇	七、八〇〇	二、五〇〇	三、五〇〇	二、五〇〇								
井上作之助	三浦周行	遠山茂樹	川口白浦	伊豆豆腐	荻野三七彦	伊地知鉄男	中村直勝	中村直勝	菅平研究会	後藤勝一	西日本文化協会	金沢復一編	菅平研究会	宇野宗佑	岩波書店	大日本古記録	すみや書房	黒板勝美編	竹内理三編	黒板勝美編	内務省地理局編	外交部	昭39	昭42	昭53	昭42	昭39	昭47	昭38	昭46								
71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33
東京新川の今昔	近世紅花問屋の研究	和装織物業の研究	近世商業経営の研究	近世商業経営の研究	日本農村人口論	日本農民一揆録	旧加賀藩田地利制度	旧加賀藩田地利制度	日本賦税史研究	庄園賦税過程の研究	日本荘園史概説	土地及び聚落史上の諸問題	日本想芸史	日本文化史論考	日本文化史序説	江戸の流行っ子	近世風俗史	近世思想史研究	近世の日本	豊太閤の私生活	武家時代の私生活	武家時代の社会と精神	初期封建制の研究	日本中世史	日本封建制成立過程の研究	日本中世史	源平時代の人々	律令官人給与制の研究	律令財政史の研究	百濟王敬福	土御門天皇の御遺蹟	大礼と朝儀	国史上の社会問題	日本史新講 前篇	日本の歴史	国史通記		
昭38	昭44	昭57	昭37	昭23	昭5	昭46	昭11	昭11	昭34	昭38	昭38	昭51	昭21	昭44	昭38	昭18	昭18	昭19	昭17	昭16	昭16	昭39	昭36	昭55	昭13	昭45	昭36	昭40	昭17	昭15	昭11	昭16	昭16	昭16	昭16	昭16		
六、〇〇〇	六、〇〇〇	五、〇〇〇	七、五〇〇	七、〇〇〇	四、五〇〇	八、〇〇〇	三、〇〇〇	八、〇〇〇	二、八〇〇	二、五〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、五〇〇	一、八〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、五〇〇	一、八〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	六、〇〇〇	五、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	六、〇〇〇	五、〇〇〇	六、八〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇		
岡村岑三郎	沢田章	宮本又次	宮本又次	宮本又次	田村栄太郎	渡辺信一	杉山博	杉山博	村井康彦	安田元久	牧野信之助	中村直勝	村井康彦	西田直二郎	西田直二郎	宇野宗佑	三田村高魚	大村文夫編	肥後和男	内田銀蔵	渡辺世祐	辻善之助	藤直幹	安田元久編	永原慶二	平山敏治郎	原勝郎	前川晃一	高橋崇	村尾次郎	今井啓一	武田勝次郎	出雲路通次郎	三浦周行	魚澄惣五郎	秋山謙蔵	西田直二郎	
110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72
せんば繁昌誌	せんば一斎斎橋	船場	大阪町人	大阪	私の研究遍歴	大阪陣の起因	大阪城	近世大坂平野の村落	大阪経済史研究	大阪文化史研究	大阪郷土史	復刊大阪史談一(四)昭21(35)合一	大日本府県志第一(四卷合一)河井庫太郎	高野山 通念集 三冊揃	江戸鹿子	芸州蔵島図会 二冊揃	伊勢参宮名所図会	都林泉名勝図会	都名所図会・捨遺都名所図会 二冊揃	江戸名所図会 四冊揃	日光山志・日本名山図会	日本名山図会	日本山名図会	幕末和蘭留学関係史料集成	日蘭文化交流史	吉利支丹の跡を尋ねて	日本と泰國との関係	日支文化交流史	日本海防史	日本海防史	藩貿易史の研究	朱印船貿易史	海とそ先の先駆者	東海道宿駅と基本陣の研究(複製)	京都守護職始末	日本古代法の研究	定本御定書の研究 三冊	材料木問屋組合正史
昭53	昭45	昭36	昭32	昭53	昭11	昭6	昭45	昭18	昭10	昭18	昭15	明23	昭45	昭45	昭4	昭3	昭3	昭3	昭3	昭4	昭4	昭4	昭55	昭57	昭9	昭13	昭17	昭33	昭18	昭55	昭10	昭54	昭5	昭34	昭43	昭51		
三、〇〇〇	三、〇〇〇	八、五〇〇	一、二〇〇	六、五〇〇	三、五〇〇	四、八〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	二、五〇〇	八、〇〇〇	二、五〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	七、〇〇〇	二、〇〇〇	七、〇〇〇	四、八〇〇	五、〇〇〇	九、五〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇		
根来藤作	同連盟	宮本又次	宮本又次	宮本又次	三浦三郎	三浦三郎	大坂市役所	菅村武夫編	菅村武夫編	菅村武夫編	久保田辰彦	河井庫太郎	古版地誌叢書	古版地誌叢書	日本図会全集	日本図会全集	日本図会全集	日本図会全集	日本図会全集	日本図会全集	日本図会全集	日本図会全集	増田毅	日蘭学会編	板沢武雄	中島定夫	内田銀蔵	辻善之助	坂ノ上信夫	武野要子	川島元次郎	竹内尉	大熊喜太郎	山川浩	石尾芳久	奥野彦六	島田錦蔵	

〒606 京都市左京区浄土寺西田町八十一
法律経済思想
竹岡書店
電話(〇七五) 七六一一四五五
振替 京都 五一四二六一二

32	トロッキー	社会ファシズム論批判	徳田	昭45	一、五〇〇
31	トロッキー	左翼反対派の綱領	救仁郷繁	昭44	一、五〇〇
30	アンドレ・レモヌ	私は弾劾する	羽田	昭46	二、〇〇〇
29	ローザルクセツブルク	論集	酒井角三郎他	昭45	二、〇〇〇
28	ウルフ	ファシズムの本質	斎藤孝	昭45	二、〇〇〇
27	デーヴィス	ナショナリズムと社会主義	藤野	昭44	二、〇〇〇
26	ウイリアムズ	脅かす第四階級	土屋他	昭35	二、五〇〇
25	ガンサー	アメリカの内幕	読売新聞社	昭25	二、五〇〇
24	フィヒテ	獨逸国民に告ぐ	河合哲雄	昭25	二、五〇〇
23	ハイマン	共産主義・ファシズム・民主主義	民主主義	昭24	二、〇〇〇
22	西洋の哲学	世界の崩壊	堀木庸三	昭44	一、五〇〇
21	革命の哲学	(少線引)	藤木進治	昭41	一、五〇〇
20	現代思潮	(哲学講座)	風早八十二他	昭25	一、〇〇〇
19	哲学の歴史	(哲学講座)	田中美知太郎他	昭25	一、〇〇〇
18	思想の自由と人間の責任		森有正	昭25	一、五〇〇
17	哲学概論講義		由良哲次	昭17	一、五〇〇
16	仏教の真髓		高橋順次郎	昭15	一、五〇〇
15	西洋古代中世哲学史		安倍能成	昭14	一、五〇〇
14	哲学以前		出隆	昭13	一、五〇〇
13	改訂 哲学概論		桑木嚴翼	昭5	一、〇〇〇
12	西洋近世哲学史		安倍能成	大13	一、五〇〇
11	宗教と人生		帆足理三郎	大11	一、五〇〇
10	美学		阿部次郎	大11	一、五〇〇
9	モルガン	人間のしるし	石川湧	昭27	一、八〇〇
8	ケーラー	心理学における力学説	相良	昭26	二、〇〇〇
7	ラスキ	信仰・理性・文明	中野好夫	昭26	一、五〇〇
6	ツァラトーストラ	羞恥・同情・運命	土井	昭23	二、五〇〇
5	プラトン	対話篇 饗宴	阿部次郎他	昭16	一、〇〇〇
4	ヤスパーズ	青年時代のヘーゲル	徳永他	昭14	一、〇〇〇
3	デイルタイ	第一原理(世界大思想全集)	甘粕	昭13	二、〇〇〇
2	スペンサー	現代の哲学的考察	徳永他	昭12	一、〇〇〇
1	オイケンの哲学		稲毛詛風	大2	一、五〇〇
33	世界の秘密	ユダヤ思想と共産主義	内田	昭42	一、〇〇〇
34	増補	叛逆のバリケード日大闘争の記録	滝田修評論集	昭46	二、〇〇〇
35	ならざる暴力宣言		滝田修評論集	昭46	二、〇〇〇
36	構造主義	(現代のエスプリ)	岡義武他	昭47	一、三〇〇
37	ブリント	革命の解剖	倉持俊一	昭27	二、〇〇〇
38	ゲラン	人民戦線革命の破産	海原峻	昭43	一、五〇〇
39	フォン・ラウエ	ロシア革命論	村馬忠行	昭44	二、〇〇〇
40	ジエームズ	世界革命1736	野村浩一	昭46	二、五〇〇
41	中国革命の思想		野村浩一	昭47	二、〇〇〇
42	ローゼンベルク	ヴァイマル共和国成立史	小幡	昭44	三、〇〇〇
43	フレミング	現代国際政治史④欠	小幡	昭45	一、〇〇〇
44	現代民主政と政治学		京極純一	昭44	二、〇〇〇
45	国際政治史	(少線引)	岡義武	昭44	二、〇〇〇
46	比較政治機構論		蠟山政道	昭44	一、五〇〇
47	政治学原理		蠟山政道	昭44	一、五〇〇
48	ドイツ現代政治史	ナチスの興隆	中村	昭44	一、五〇〇
49	羅馬帝国没落史観		大類伸監	昭19	二、〇〇〇
50	フランス社会運動史		石川三四郎	昭6	一、五〇〇
51	小論集	(ランケ選集)	小林栄三郎他	昭18	二、〇〇〇
52	十九世紀ドイツ・フランス史		堀米他	昭18	二、〇〇〇
53	伝記	(一々)	西村貞二他	昭18	二、〇〇〇
54	日本革命史	社会思想的研究	猪木正道	昭26	二、〇〇〇
55	日本帝国主義の形成		井上清	昭43	一、五〇〇
56	朝鮮史		旗田巍	昭36	二、五〇〇
57	ベネデイクト	菊と刀	長谷川松治	昭26	一、五〇〇
58	極東の民族	(現代叢書)	吉野作造	大5	一、五〇〇
59	日本民族理想		西村真次	昭16	二、〇〇〇
60	日本民族論		白柳秀湖	昭17	一、五〇〇
61	民族の独立	(現代人の思想)	堀田善衛編	昭45	一、五〇〇
62	民族と歴史哲学		宮島肇	昭18	一、五〇〇
63	現代日本史		大森金五郎	昭9	二、〇〇〇
64	概観維新史		文部省	昭15	一、〇〇〇
65	新版ゲマインシャフト		新藤正道	昭18	一、五〇〇
66	ルソ	民約論	加藤一夫	昭2	一、〇〇〇
67	ミル	功利説	富田義介・小倉兼秋	昭24	一、五〇〇
68	ミル	功利説	富田義介・小倉兼秋	昭23	一、五〇〇
69	ヒトラー	吾が闘争 全2冊	眞鍋良一	昭17	二、〇〇〇
70	ベネット	ヒンデンブルクからヒトラーへ	木原健男	昭45	二、〇〇〇
71	ヘーゲル	(思想 特集号)	岩波書店	昭45	一、五〇〇
72	ダーウイン	の生涯(大学講座叢書)	山内	昭25	一、〇〇〇
73	近世自由思想家としてのホッブズ		(々)	昭25	一、〇〇〇
74	近世の思想の出発点デカルト		(々)	昭25	一、〇〇〇
75	人としてのマックス・ウェーバー		(々)	昭25	一、〇〇〇
76	マックス・ウェーバー	(現代のエスプリ)	立澤剛	昭47	一、五〇〇
77	ニイチエ	ツァラトーストラ	西脇玉峯	昭25	一、五〇〇
78	孔子		明41	一、五〇〇	
79	ナポレオン	傳(偉人傳全集)	菊池寛	昭6	一、〇〇〇
80	東郷平八郎	傳	小笠原長寛	昭6	一、五〇〇
81	伊藤博文	傳	久米正雄	昭6	一、〇〇〇
82	北一輝	(現代のエスプリ)	改造社	昭48	一、〇〇〇
83	三宅雪嶺	(現代日本文学全集)		昭6	二、五〇〇
84	徳富蘇峰			昭6	二、〇〇〇
85	時勢と人物		徳富猪一郎	昭4	一、五〇〇
86	レブケ	現代経済の危機	喜多村浩	昭24	一、〇〇〇
87	近代経済学の解剖		杉本栄一	昭25	一、五〇〇
88	戦後日本の農業と農民		井野隆一他	昭46	一、五〇〇
89	民法におけるローマ思想とゲルマン思想		平野義太郎	大13	二、五〇〇
90	国際連合		横田喜二郎	昭26	二、〇〇〇
91	国際法 第二版		田畑茂二郎	昭44	一、五〇〇
92	新旧対照改正会社法解説		西本寛一	昭25	一、五〇〇
93	日本社会の家族的構成		川島武宜	昭25	一、〇〇〇
94	法学的国家論		原田綱	昭27	二、五〇〇
95	教育の底にあるもの		正木正	昭25	一、〇〇〇
96	討論三島由紀夫VS東大全共闘		新潮社	昭44	一、五〇〇
97	カーライル	サーター・リザータ	柳田泉	昭2	二、〇〇〇
98	ラモン・ベレス・デ・アヤリャ	全3冊	中山惣太	昭16	二、〇〇〇
99	ベラルミノーとアポロニオ		那須	昭17	二、五〇〇
100	ワトソン	人間は如何に行動するか	森有正	昭26	一、八〇〇
101	ストロウスキー	フランスの知恵	除村吉太郎	昭27	三、〇〇〇
102	ソヴェト文学史 I、II		山内得立	昭25	一、〇〇〇
103	生成・創造・形成	三つの林檎	中村真一郎他	昭26	一、〇〇〇
104	現代文学(文学講座)		阿部知二他	昭26	一、〇〇〇
105	文学の問題	(一々)	加藤周一他	昭26	一、〇〇〇

其 中 堂

〒604 京都市中京区寺町通三条北

電話(〇七五)二三二二九七一
振替 京都 二一五三三八

1	望月仏教大辞典	六十卷	六,〇〇〇
2	仏教語大辞典	中村 縮刷版	一六,〇〇〇
3	織田仏教大辞典	中村 縮刷版	三〇,〇〇〇
4	新・仏教辞典	中村	三,五〇〇
5	仏教辞典	宇井	三,〇〇〇
6	日英仏教辞典	多屋他	三,五〇〇
7	仏教学辞典	密教学会 縮刷版	二五,〇〇〇
8	密教大辞典	佐和	九,五〇〇
9	密教辞典	金岡	二,三〇〇
10	空海辞典	田村	二,三〇〇
11	最澄辞典	塚本	六,〇〇〇
12	浄土宗大辞典	惠谷	六,〇〇〇
13	新浄土宗辞典	岡村	二,五〇〇
14	真宗大辞典	金子他	二,五〇〇
15	真宗新辞典	河野他	二,〇〇〇
16	親鸞辞典	菊村	三,〇〇〇
17	禅学大辞典	駒大 全三卷	三,〇〇〇
18	禅語小辞典	佐橋	二,〇〇〇
19	道元辞典	菅沼	二,〇〇〇
20	日蓮辞典	宮崎	二,〇〇〇
21	現代語訳 法華辞典	水野他	四,〇〇〇
22	仏典解題事典	モニエル	四,〇〇〇
23	梵英辞典	マクドネル	三,〇〇〇
24	梵英辞典	エシユケ	七,〇〇〇
25	日本名僧辞典	中尾他	二,〇〇〇
26	日本名僧辞典	金岡他	二,〇〇〇
27	仏教宗派辞典	藤井	二,〇〇〇
28	仏教儀礼辞典	清水	二,〇〇〇
29	仏具辞典	佐和	二,〇〇〇
30	仏像辞典	久野	七,〇〇〇
31	仏像事典	金岡	四,〇〇〇
32	古寺名刹大辞典		四,〇〇〇

(株) 善 書 堂

〒602 京都市上京区河原町今出川上ル

電話(〇七五)一三一七七一

1	中国関係説資料(哲学・宗教)一巻一、二巻	十六冊	三〇〇,〇〇〇
2	白鳥庫吉全集	全十冊揃	昭44 五〇,〇〇〇
3	武内義雄全集	全十冊揃	昭53 四六,〇〇〇
4	加藤博士 東洋史集説	角川書店	昭16 七,〇〇〇
5	羽田博士 東洋学論叢	富山房	昭50 一五,〇〇〇
6	石浜先生 東洋学論叢	同朋舎	昭33 三,〇〇〇
7	白鳥博士 東洋学論叢	同刊行会	昭33 二,五〇〇
8	古藤博士 東洋史論叢	岩波書店	昭14 二,〇〇〇
9	内田博士 東洋史論叢	富山房	昭8 三,〇〇〇
10	後藤博士 東洋史論叢	同朋舎	昭53 九,〇〇〇
11	人文科学研究所五十年	山川出版	昭50 七,〇〇〇
12	後漢書語彙集成 三冊揃	京大人文研	昭54 一五,〇〇〇
13	宋元学案 人名字號別名索引	京大人文研	昭35 八,〇〇〇
14	居庸閣 一冊揃	京都大学工学部	昭49 二五,〇〇〇
15	龍門石窟の研究	水野・長廣著	昭55 六,〇〇〇
16	中国古印図録	大谷大学	昭39 七,五〇〇
17	周秦漢三代の古紐研究(續)	高畑彦次郎	昭12 二,〇〇〇
18	禮記月令天文攷	能田忠亮	昭13 二,〇〇〇
19	宋本禮記疏校記	能田忠亮	昭12 六,〇〇〇
20	周髀算経の研究	能田忠亮	昭8 六,〇〇〇
21	西遊記の経典に見えたる 服飾の研究	原田淑人	昭14 一八,〇〇〇
22	古韵研究	高畑彦次郎	昭54 六,〇〇〇
23	シルク・ロード史研究	長澤和俊	昭54 二,〇〇〇
24	中国律令史の研究 曾我部 吉川弘文館		昭54 一,〇〇〇
25	明代文化史研究 閻野潜龍著	同朋舎	昭54 八,五〇〇
26	中国前近代史研究 早大文学部	雄山閣	昭55 四,〇〇〇
27	古代チベット史研究 二冊揃	同朋舎	昭52 二,〇〇〇
28	蒲壽庚の事蹟 桑原隲藏 岩波書店		昭10 一〇,〇〇〇
29	中国伝統社会とその法思想 東洋哲学研究所		昭53 五,五〇〇
30	中国歴史地理研究 日比野丈夫 同朋舎		昭55 二,〇〇〇
31	支那文化と支那学の起源 後藤末雄著	同朋舎	昭16 五,〇〇〇
32	中国法制大辞典 東川徳治著 燎原		昭54 二,〇〇〇
33	中国近代化の社会構造 東京教育大学 アジア史研究会		昭41 六,〇〇〇
34	近代中国外交史研究 坂野正高著 岩波		昭50 六,〇〇〇

文 庫 堂

〒602 京都市上京区大宮通出水下る
家永町七六一

電話(〇七五)八一七二五九
振替 京都 二一四二五七九

1	北方の画匠たち ブルクハルト	昭24 二,五〇〇	
2	に於ける 欧州美術と東亜の影響	山田智三郎	昭17 九,五〇〇
3	花鳥画の描き方 西沢笛歌	アトリエ社	昭16 三,〇〇〇
4	芸術の創造と歴史 井島雄	弘文堂	昭22 三,〇〇〇
5	近代芸術序説 本間久雄	文省社	昭14 二,〇〇〇
6	広重 木村荘八 アルス美術叢書普及版		昭3 一,〇〇〇
7	ルッソノオ 足立源一郎	岸田日出刀 相模書房	昭25 二,〇〇〇
8	蟹	ブルノー・タウト	昭17 三,〇〇〇
9	現代支那の文化と芸術 一戸務 松山房		昭16 三,〇〇〇
10	支那美術史 支那地理歴史大系	堂谷憲勇 桑名文星堂	昭19 三,〇〇〇
11	支那美術史論	堂谷憲勇	昭16 二,五〇〇
12	支那名画の鑑賞	佐藤良 帝国教育会	昭19 三,〇〇〇
13	支那美術史要説	上巻 吉川弘文館	昭46 二,〇〇〇
14	東洋美術史要説	小野忠重 双林社	昭19 八,〇〇〇
15	支那版画叢考	印南高一 玄光社	昭16 五,〇〇〇
16	長安の春	石田幹之助 印有	昭16 八,〇〇〇
17	藤原の影絵芝居	新坂紫舟 建設社	昭9 四,五〇〇
18	日本染織文献総覧 後藤捷一	人文書院	昭55 二,五〇〇
19	続万葉動物考	東光治	昭19 五,〇〇〇
20	鳥獣の習性	堀内謙位 昭森社	昭17 三,〇〇〇
21	子ども風土記	柳田国男 朝日新聞社	昭17 二,〇〇〇
22	先租の話	柳田国男 筑摩書房	昭21 二,〇〇〇
23	北海道の伝説	更科源蔵 渡辺茂編	昭27 二,〇〇〇
24	京都市史 編年綱目第二巻	復刻版	昭21 六,〇〇〇
25	別府市誌	復刻版	昭53 九,五〇〇
26	組合史	西陣織物工業組合	昭47 五,〇〇〇
27	帯屋五十年	岡本慶三 白川書院	昭31 二,〇〇〇
28	統現代風俗帖 初版 木村荘八		昭28 三,五〇〇
29	奇本・珍本・本の虫 初版 庄司浅水		昭29 三,五〇〇
30	国体を描く画家 神山白土 艸書房		昭19 三,〇〇〇
31	先覚者岡倉天心 清見陸郎	アトリエ社	昭17 三,五〇〇

萩書房

〒602 京都市上京区烏丸通り上御霊前下ル
上御霊前町四二二

電話(〇七五)四三二一三七一
振替 京都 八一四三六

美術展覧会図録特集

- 1 浮世絵三百年名作展 日経新聞 昭56 二、五〇〇
- 2 ポーランド秘蔵浮世絵名作展 共同通信 二、二〇〇
- 3 浮世絵肉筆名品展 三冊 三越 黒羽洞 六、〇〇〇

◆分売各冊二、〇〇〇円

- 明治・大正から昭和へ近代日本美術の歩み展(朝日)昭54
- 村上華岳(何必出版)昭56○大谷コレクション肉筆浮世絵名品展(日経)昭55○源氏物語の美術(京博特別展)昭50○東大寺展(朝日)昭55○高山寺展(朝日)昭56○楠部彌式彩挺展(毎日)昭49○安宅コレクション東洋陶磁展(日経)昭53○日本の武具(東博特別展)昭51○第3回国際美術展○古代エンブト展(読売)昭53○中国敦煌壁画展(毎日)昭57○マンガラ(西武)昭55○棟方志功展(朝日)昭51

◆分売各冊一、七〇〇円

- サンパウロ美術館展(毎日)昭48○フリードリッヒとその周辺(日経)昭53○フゾナル展(読売)昭55○加山又造展(日経)昭53○京都画壇の巨峰竹内栖鳳展(京都新聞)昭53○安井曾太郎展(京都新聞)昭54○伊東深水展(日経)昭47○吉原治良展昭48○堂本印象展(日文財団)昭52○山田申吾素描展(和光)昭54○清水六兵衛回顧展(日文財団)昭53

◆分売各冊一、三〇〇円

- ゴヤ・グレコ・ベラスケスを中心とするスペイン美術展(朝日)昭45○レンブラントとオランダ絵画巨匠展(読売)昭43○ポストン美術館秘蔵展フランス絵画の巨匠たち(日テレ)昭54○ヨーロッパ巨匠水彩素描展(朝日)昭46○イタリ・ルネッサンス美術展(中)昭55○ルネ・マガリット展(毎日)昭46○ポナール展(毎日)昭43○ピカソ展(読売)昭52○マチス展(読売)昭56○シヤガール展(読売)昭51○セザンヌ展(読売)昭49○ヴァン・ゴッホ展(中)昭51○速水御舟の芸術展(日経)○平山郁夫シルクロード展(朝日)昭51○スキタイとシルクロード美術展(日経)昭44○ベルシヤ陶器の世界(朝日)昭55○中国陶器展(日経)昭55○マイセン磁器三〇〇年展(日経)○近代陶芸の巨匠清水六和(府資料館)昭52

福田屋書店

〒606 京都市左京区田中里ノ前町55

電話(〇七五)七八一三三二六

- 1 海外神社史 上巻 小笠原省三編 昭28 六、五〇〇
- 2 曼荼羅庭園瓦塔の由来 石田茂作 昭49 四、五〇〇
- 3 古寺巡礼法印集 立石不二編 昭49 四、〇〇〇
- 4 選擇集概説 鈴木法珠 興教書院 昭9 八、〇〇〇
- 5 仏教美術合掌図譜 澁川歌麿編 昭10 五、五〇〇
- 6 五重講説 上下 岩井智海 浄土教新報 昭56 八、〇〇〇
- 7 日本曹洞禪の基礎的考察序論 藤本道 昭60 四、〇〇〇
- 8 勝鬘經義疏 花山信勝校訂 吉川弘文館 昭52 五、五〇〇
- 9 聖徳太子尊像集成 全三冊 講談社 昭28 二、〇〇〇
- 10 聖徳太子尊像集成 全三冊 講談社 昭28 二、〇〇〇
- 11 聖徳太子御聖蹟の研究 田中重久 昭19 三、五〇〇
- 12 聖徳太子御聖蹟の研究 田中重久 昭19 三、五〇〇
- 13 聖徳太子御聖蹟の研究 田中重久 昭19 三、五〇〇
- 14 聖徳太子御聖蹟の研究 田中重久 昭19 三、五〇〇
- 15 聖徳太子論纂 平安考古会編 昭51 四、八〇〇
- 16 聖徳太子の研究 大野達之助吉川弘文館 昭53 四、五〇〇
- 17 太子信仰の研究 林幹彌 吉川弘文館 昭55 七、五〇〇
- 18 聖徳太子新論 岡田文秀 昭54 二、五〇〇
- 19 幽玄遺響 後編 和田知雄 昭49 二、〇〇〇
- 20 しのぶ草 和田知雄 昭50 二、〇〇〇
- 21 よみがえる塔 中野英賢 昭55 二、〇〇〇
- 22 怒涛の中の孤舟岡田文秀自叙伝 昭49 二、五〇〇
- 23 川面凡児先生伝 金谷貞 昭33 三、〇〇〇
- 24 陸軍大將本庄繁 林政春 昭42 三、五〇〇
- 25 滿州事変の関東軍司令官本庄繁 林政春 昭42 三、〇〇〇
- 26 本庄日記 本庄繁 明治百年史双書 昭52 三、〇〇〇
- 27 本庄総裁と軍事保護院 甲賀春一編 昭36 二、〇〇〇
- 28 回想八十八年 石井光次郎 昭51 三、〇〇〇
- 29 追悼石井光次郎 石井久子 昭57 二、〇〇〇
- 30 孫文総理遺墨 昭57 四、五〇〇
- 31 男爵郷裁之助君伝 昭18 八、五〇〇
- 32 木堂犬養毅 昭54 六、五〇〇
- 33 目で見える久留米の歴史 久留米市 昭54 五、〇〇〇

藤原学北御所書房壬生営業所

〒604 京都市中京区壬生下溝町七一
(仏光寺通西新道東入)

電話(〇七五)三二五一五六〇

- 1 演劇学序説 下巻 背少痛 飯塚友一郎 昭24 二、三〇〇
- 2 元祿劇篇 演劇史研究1 昭11 八、〇〇〇
- 3 歌舞演劇講話 高野 辰之 昭4 三、五〇〇
- 4 御世話筋秘曲 能楽史料1 坂本雪鳥編 昭8 三、〇〇〇
- 5 歌沢茶話 英 十三 昭10 一、〇〇〇
- 6 (小谷)竹葉記念 少汚 水谷八重子刊 昭11 一、五〇〇
- 7 明治の演劇 岡本 綺堂 昭24 一、五〇〇
- 8 小山内薫 久保 栄 昭22 一、五〇〇
- 9 芝居名所一瞥見上 舞台の上 飯塚友一郎 昭28 二、五〇〇
- 10 芸能文化論 加藤 博 昭19 二、五〇〇
- 11 茶の科学 熊原 政男 昭23 一、六〇〇
- 12 鎌倉の茶 竹内 蔚 昭16 二、〇〇〇
- 13 千利休 創元選書 昭19 二、〇〇〇
- 14 利休居士の茶道 千 宗守 昭19 二、〇〇〇
- 15 小習字十六ヶ條伝記 千 宗室 昭19 二、〇〇〇
- 16 風興集 正統 二冊 千 宗室 昭23 一、八〇〇
- 17 茶室 花 重森 三玲 昭22 二、〇〇〇
- 18 近畿茶室行脚 少汚旧蔵書込 岡田孝男 昭18 二、五〇〇
- 19 茶庭篇 茶道全集4 齊藤 勝雄 昭18 二、五〇〇
- 20 庭園新考 重森 三玲 昭18 二、〇〇〇
- 21 茶庭入門 奥附欠 昭21 二、〇〇〇
- 22 お茶の庭 昭21 二、〇〇〇
- 23 京の庭 昭21 二、〇〇〇
- 24 日本の茶席建築 33頁 昭21 二、〇〇〇
- 25 日本の庭園芸術 34頁 昭21 二、〇〇〇
- 26 石造美術と京都 川勝次郎 昭21 二、〇〇〇
- 27 新選京都名勝誌 少汚 京都市編 昭21 二、五〇〇
- 28 旅行 京都史蹟案内 京大友会編 昭8 二、五〇〇
- 29 京都の障壁画 市観光課 昭16 二、五〇〇
- 30 京都人物山脈 毎日新聞社 昭31 一、五〇〇
- 前号(23号)で29、仏教芸術 73・74・93
右記御注文いただきましたお客様御住所が
記載されていません。再度御注文下さい。

〒600 京都市下京区寺町通仏光寺

三密堂書店

電話(〇七五)三五二一九六三
振替 京都 四一三四七一

◎今回は易学特集

- 1 易経講話五冊揃 公田運太郎著 明德出版 昭42 六、〇〇〇
- 2 増補 易の新研究 藤村興六著 有恒堂 昭16 八、〇〇〇
- 3 易学千里眼 大島順太編 生書院 昭3 八、〇〇〇
- 4 独り占ひ秘法 神山五黄著 神宮館 昭8 八、〇〇〇
- 5 易占秘訣二冊揃 熊阪清治著 浪花書肆 昭初 五、〇〇〇
- 6 心占法興義 大和乘洲著 大和易 昭8 三、五〇〇
- 7 占断実験録二冊揃 神山五黄著 神山易学会 昭7 八、〇〇〇
- 8 運命三世相大観 東洋易学研究会編 近代文芸社 昭4 四、五〇〇
- 9 五行易指南 桜田鼓岳子著 心友社 昭4 五、〇〇〇
- 10 梅花心易掌中指南 二冊揃 中根松伯著 大川屋 昭36 四、五〇〇
- 11 四柱推命学大輿極秘伝五冊揃 阿部嘉作著 山城屋 昭7 三、〇〇〇
- 12 四命字極意秘傳密伝三冊揃 阿部嘉作著 山城屋 昭4 八、五〇〇
- 13 七王下課 各課正断宝典六冊揃 阿部泰山著 同刊 昭36 二、五〇〇
- 14 研究 四柱推命秘伝書 四冊揃 伊藤耕月著 神祥館 昭5 二、〇〇〇
- 15 星平會海命学全書六冊揃 金山人頼光緒丁丑 同刊 昭36 二、五〇〇
- 16 子平測海命学詳註二冊揃 錢唐徐東奇編 掃葉山房 昭5 八、〇〇〇
- 17 改良三命通解十一冊揃 上海江左書林 宣統元年 同刊 昭5 八、〇〇〇
- 18 本家 本命の熬精義二冊揃 柏木覚深著 欽英堂 昭5 八、〇〇〇
- 19 未定 五音顯真術 陽新堂主人著 陽新堂 昭5 五、〇〇〇
- 20 九星判断独案内 川原梶三郎著 誠進堂 昭31 四、〇〇〇
- 21 合性 九星納性質辨 佐々木慶助編 同刊 昭24 二、五〇〇
- 22 熊崎式姓名学大輿 三冊揃 熊崎健翁著 五聖閣 昭6 六、〇〇〇
- 23 家相千百年眼三冊揃 平沢白翁著 衆引堂 昭化 2 六、〇〇〇
- 24 家相判断 吉村紫雲著 同刊 昭2 二、五〇〇
- 25 地理 家相方位図解秘伝 陽新堂主人著 同刊 昭1 五、〇〇〇
- 26 地相家相大全 二冊揃 小林白竜子編 大洋社 昭15 五、〇〇〇
- 27 方鑑大成二冊揃 尾島頂開著 磯川堂 昭23 七、〇〇〇
- 28 陰陽方位便覧 二冊揃 白井為賀編 欽英堂 昭5 七、〇〇〇
- 29 方位吉方独案内 高田夏州著 美文堂 昭27 二、五〇〇
- 30 血色極意伝写本 錦雲堂印有 江戸末期 半紙本 同刊 昭2 五、〇〇〇
- 31 性相講話 石童子著 玄黄社 昭2 三、五〇〇
- 32 墨色一の字秘伝 尾栄大寛著 日光堂 昭57 六、〇〇〇

〒600 京都市下京区七条通堀川角

谷書店

電話(〇七五)三六一七六九五
振替 京都 一一一七九五

- 1 印度哲学史要 金倉円照 昭25 四、〇〇〇
- 2 釈尊物語 山辺習学 昭12 二、〇〇〇
- 3 カーマストラ 印度学会 別冊欠 昭12 二、〇〇〇
- 4 大乗仏教史論 前田慧雲 昭36 三、〇〇〇
- 5 平易に 般若心経 下山慧嶽 昭3 一、五〇〇
- 6 説いた 淨土三部経 津田順彦 昭3 一、五〇〇
- 7 妙法蓮華経略義 鈴木修学 昭3 一、五〇〇
- 8 聖徳太子御一代記説教 大久保一枝 昭51 四、〇〇〇
- 9 西谷名目講義 前田慧雲 昭9 二、〇〇〇
- 10 一枚起請文・歎異鈔 倉田百三 昭9 二、〇〇〇
- 11 仏教因果物語 深海泡浪 昭9 二、〇〇〇
- 12 禅の哲学 上田大助 昭18 二、〇〇〇
- 13 十牛図講話 勝平大喜 昭12 三、〇〇〇
- 14 古今禅林佳話集 衆善会 昭10 二、〇〇〇
- 15 光華抄 大谷智子 昭15 二、〇〇〇
- 16 仏教女子講演 永井龍潤 昭15 二、〇〇〇
- 17 日本芸道と仏教のころ 岩見護 昭3 二、〇〇〇
- 18 観音靈場記図会 羽根田文明 昭34 三、〇〇〇
- 19 前編 仏教遺難史論 北川桃雄 昭21 二、〇〇〇
- 20 秘仏開扉 佐藤殿英 昭40 二、〇〇〇
- 21 二宮尊徳翁と仏教 日下部郎太 昭15 二、〇〇〇
- 22 通信 異国行脚 本法院 昭4 二、〇〇〇
- 23 物詣三世因果実験録 本法院 昭4 二、〇〇〇
- 24 華嚴遊心法界記 源信 昭4 二、〇〇〇
- 25 真如觀 和久 江戶末刊 昭4 二、〇〇〇
- 26 禅宗四部録 新刷 昭4 二、〇〇〇
- 27 和久 仏鬼神 絵入 和久 天保五 昭4 二、〇〇〇
- 28 淨土宗名目問答 和久 江戶末刊 昭4 二、〇〇〇
- 29 浄土宗名目問答 弁阿 和久 江戶末刊 昭4 二、〇〇〇
- 30 住持安案 獅子谷物語秋風録 和久 和久 昭4 二、〇〇〇
- 31 松虫鈴語 鈴木信雄 和久 和久 昭4 二、〇〇〇
- 32 聖人 護下状 本山版 和久 昭4 二、〇〇〇
- 33 真宗假名聖教 本山版 和久 昭4 二、〇〇〇

〒600 京都市下京区寺町通り五条上ル

藤井文政堂

電話(〇七五)三五二一九三三
振替 京都 七一一五一一

◆真言密教関係古次第写本江戸期 各一冊六〇〇円

- ①三衣法 ②字輪觀 ③不動法 ④内護摩 ⑤護供養作法 ⑥大日法
 - ⑦沐浴作法 ⑧鎮守誦経導師作法 ⑨隱所作法 ⑩印仏作法 ⑪曼
 - 荼羅供金打事 ⑫加持土砂作法 ⑬衣服加持 ⑭法灌頂初夜 ⑮
 - 壇行事作法 ⑯招魂法 ⑰神供壇莊嚴等事 ⑱結緣灌頂得仏言
 - ⑲秘砂目録 ⑳阿闍梨法 ㉑普賢菩薩 ㉒虚空藏法 ㉓十二仏表
 - 白 ㉔秘砂法 ㉕法汀血脈 ㉖秘悉地汀印明 ㉗法汀紹文 ㉘水天供
 - ㉙小野広相連 ㉚地藏法 ㉛理趣経法 ㉜普賢法 ㉝両部合行畧
 - 次第 ㉞加持香水 ㉟両部別行尊事 ㊱依法灌頂神供作法 ㊲印可
 - 私開書 ㊳宝樓閣法 ㊴烏瑟沙摩法 ㊵大法外儀 ㊶依法灌頂三昧
 - 耶戒拔記 ㊷普賢延命法 ㊸讚頭録 ㊹一字金輪法 ㊺五字文殊法
 - ㊻青面金剛法 ㊼聖如意輪觀音念誦次第 ㊽九字十字大黒天作
 - 法印信 ㊾護摩雜要 ㊿諸尊要集十二
- ◆仏教関係小冊子 各一冊八〇〇円
- ①弘法大師の入唐に就て(藤田) ②弘法大師(石堂) ③弘法大
 - 師御遺作の愛読者として(大江) ④杉樟の醜(石堂) ⑤阿仏尼
 - と大通寺(小川) ⑥生々法城世々法將(吉祥) ⑦弘法大師と其
 - 後の時代(魚澄) ⑧仁和寺要誌(高見) ⑨弘法大師と日本の文
 - 化(蓮生) ⑩公開せる秘密(高神) ⑪弘法大師文化史料と年譜
 - ⑫弘法大師の偉徳(富田) ⑬真言の法匠弘法大師(荒木) ⑭弘
 - 法大師御伝記(宮内) ⑮いろは歌の話(長谷) ⑯苜蓿発心因縁
 - 談(大高) ⑰金剛智三蔵と將軍米准那(崎) ⑱大師の靈光(真
 - 井) ⑲アンコールワット遺蹟の研究(高崎) ⑳國恩(惠燈) ㉑
 - 弘法大師の靈格(高楠) ㉒道雄山神護國寺奇蹟誌(惠燈) ㉓大師
 - 略伝(島地) ㉔運如上人病床御物語 ㉕御修法録記(蓮生) ㉖
 - 日本精神と弘法大師黒板 ㉗弘法大師御伝記(蓮生) ㉘大師
 - 鑽仰(釈瓢斎) ㉙沙門良寛詩集(大宮) ㉚運如上人略伝 ㉛乙亥
 - の聖者(富田) ㉜五嶽の雲(石堂) ㉝中観瑜伽論評の歴史的意
 - 義に就いて(山口) ㉞印度の社会(本田) ㉟大黒天の由来と信
 - 仰(高田) ㊱慶念坊の事蹟 ㊲二十八宿配当法のは非と宿曜経
 - の見方(岩原) ㊳真智と解説(松尾) ㊴宗教改革の宗教再建
 - (武内) ㊵曹洞宗概論 ㊶明如上人遺芳録 ㊷皇道と密教(山岡)
 - ㊸一光三尊の御仏 ㊹正しい建墓と祭祀(竹谷)

井上書店

〒606 京都市左京区今出川通百万遍東入 (京都大学前)

電話(〇七五) 七八一三三五二 振替 京都 七一二四九七

Table with 3 columns: Item No., Title, Price. Includes items like '世界考古学大系1 箱入', '現代日本画大鑑', '現代美学思潮'.

山崎書店

〒612 京都市伏見区深草稻荷鳥居前町22

電話(〇七五) 六四一四七七四 振替 京都 一八三六

Table with 3 columns: Item No., Title, Price. Includes items like 'ドストエフスキー論', 'ドストエフスキーの個性', 'ドストエフスキーの夢相家'.

Table with 3 columns: Item No., Title, Price. Includes items like '散文の理論', 'ロシヤ思想家とヨーロッパ', 'ドストエフスキー全集'.

古書籍 東方書店

電話(〇七五)四九一―三〇七一

〒603 京都市北区小山下内河原町六三

1	樂只百十年史 其記念事業委員会	昭58	三,〇〇〇
2	聚楽校百年史 其百周年記念事業委	昭45	三,〇〇〇
3	明德学園五十年史 其編集委員会	昭45	二,〇〇〇
4	修徳百年の回顧 修徳同窓会	昭44	三,五〇〇
5	明倫誌 一・二篇 明倫小学校	昭45	八,〇〇〇
6	静原百年史 其百周年記念事業委	昭50	三,〇〇〇
7	上賀茂百年のあゆみ 其小学校百周年委	昭48	二,五〇〇
8	乾百年史 其百年史編集委	昭45	三,五〇〇
9	格致百年史 格致沿革史委	昭44	二,五〇〇
10	日彰百年誌 日彰百年誌編集委	昭46	五,〇〇〇
11	松ヶ崎百年史 其小学校百周年記念会	昭48	三,〇〇〇
12	神戸女学院百年史総説 其編集委	昭51	六,〇〇〇
13	鷹峰百年誌 其記念事業委	昭48	三,〇〇〇
14	京都教育大学附屬		
15	京都小学校百年史 其記念誌編集委	昭56	六,〇〇〇
16	出水校百年史 其小学校百年祭記念	昭44	四,〇〇〇
17	分校小学校百年史(石川) 其記念事業委	昭50	三,〇〇〇
18	大数校百年史 其百周年事業委	昭48	三,〇〇〇
19	聚楽小学校九十年記念誌 其記念事業委	昭34	三,五〇〇
20	大谷中高等学校百年史	昭49	三,五〇〇
21	大阪商科大学一覽	昭8	三,〇〇〇
22	京都府学事関係職員録 京都府教育会	昭15各六	〇〇〇
23	岡山県学事概要 岡山県学務部	昭12	三,〇〇〇
24	芸備協会会報No2 No12揃 芸備協会	昭2一五	〇〇〇
25	芸備 創刊号 熊本県官人協会	昭6	三,〇〇〇
26	同志社文学 第三期創刊号	昭2	二,五〇〇
27	帝国学士一覽 帝国学士院刊	昭2	三,〇〇〇
28	彦根高等商業学校一覽 大正15、16年	昭2	三,〇〇〇
29	鯉城 三十三号 広島第一中学校々友会	昭13	三,〇〇〇
30	第三神港商業学校十五年史 其記念会	昭13	三,〇〇〇
31	愛知師範同窓会雑誌No55、68、77、83	昭40一八	〇〇〇
32	校友会雑誌No283 No296在本十冊一高校友会	昭24一〇〇	〇〇〇
33	教育パンフレットNo9 No14在本四冊 野村教育研	昭15一八	〇〇〇
34	異常児教育 四号 京都市特別児童教研	昭14	二,〇〇〇
35	適才教育 第壹輯 脇田良吉編	昭3	三,〇〇〇
36	会誌一、二号 京都市第二小学校々友会	昭7	六,〇〇〇
37	四明会誌 創刊号 京都帝大農学部	昭8	三,〇〇〇
38	年表 滋賀県立八幡商業学校	昭16	三,〇〇〇
39	本校諸規則及び統計並に図表 八幡商業学校	昭16	三,〇〇〇
40	学友会雑誌No20 第一早稲田高等学校	昭4	二,〇〇〇
41	至誠 18、24号 大阪府立八尾中同窓会	昭4一〇	〇〇〇
42	三高五十年記念館落成記念 三高	昭7	三,〇〇〇
43	会誌11、13、16、18号 神奈川厚木中校友会	昭9一六	〇〇〇
44	麗正会雑誌24、25、26号 台北中学	昭5一八	〇〇〇
45	大阪府立八尾中学一覽 一枚両面刷	昭9	三,〇〇〇
46	符 三高文科乙	昭12	三,〇〇〇
47	道運一、二号 三高理一乙	昭12	七,〇〇〇
48	朝鮮教育研究会雑誌 23号 朝鮮教育会	昭6	三,〇〇〇
49	会報 三号 一高同窓会	昭15	三,〇〇〇
50	後援会報No1 No8内No2 一高陸上後援会	昭5	二,〇〇〇
51	嶽水会雑誌No14 No118三高文芸部編	昭8	一五,〇〇〇
52	会報 4、8、12臨時号 三高同窓会	昭9	一五,〇〇〇
53	緑会雑誌No9、10、11 東京帝大法学部	昭12	五,〇〇〇
54	同窓会誌No57、59 京都第一中学校	昭14	四,〇〇〇
55	会誌No27、35、38、46 No51欠	昭7	一五,〇〇〇
56	校友 五号大札記念 東京府立第五高女校友会	昭4	三,〇〇〇
57	会誌第二号 檜蔭高女同窓会	昭7	二,〇〇〇
58	創立三十五周年記念誌 京都市立堀川高女校友会同窓会	昭8	三,〇〇〇
59	春錦会誌 創刊号 京都府立第一高女	昭2	三,〇〇〇
60	剣陵No36、38、41、42 名古屋高商文芸部	昭11	六,〇〇〇
61	燈光 15巻6、9、11年 京都府立一中	昭4	三,〇〇〇
62	年報大正7、8、9、11年 京都府立一中	昭4	三,〇〇〇
63	学友会誌No20、26 京都府立一中	昭6各二	〇〇〇
64	養勇会雑誌No1 No3号 福井小浜中学校	昭13	八,〇〇〇
65	六高同窓会報 創刊号 其同窓会	昭14	三,〇〇〇
66	校友会誌No95 No102在本五冊 六高校友会	昭12	六,〇〇〇
67	住友惣開小学校同窓会報7、9、11号 愛媛県	昭8	五,〇〇〇
68	穹窿No27 No28 六高穹窿会	昭7	四,〇〇〇
69	六拾周年記念会報 岡山一中校友会	昭9	三,〇〇〇
70	会報 16号 京都市立第一高小旭日同窓会	昭44	二,〇〇〇
71	校友会雑誌No116 No148在本14冊 一高校友会	昭35一八	〇〇〇
72	新制体育教本 中等体育研究会	昭12	五,〇〇〇
73	柔道教典 竹田浅次郎	昭10	四,〇〇〇
74	京都読本 京都市教育会	昭6	三,〇〇〇
75	作文字類便蒙 横本和、松岡彦二	昭11	四,〇〇〇
76	改訂高等女学校図画帖二巻 白浜微編	昭11	四,〇〇〇
77	女子図画教科書 訂正一、六巻 図画教育研	昭4	三,〇〇〇
78	女子高等画帖3、4、5、7、8巻木版刷校定済	昭37	二,〇〇〇
79	新制図法一、二、三再修正版 校定済 積善館	昭9	四,〇〇〇
80	新制図法一、二、三 校定済 美育振興会	昭14	六,〇〇〇
81	数の方陣の話 一、二巻 安部元章	昭12	六,〇〇〇
82	歸除便蒙 石川新次	昭16	五,〇〇〇
83	和歌山心学資料小叢 井上豊太郎	昭12	六,〇〇〇
84	児童保護講演集 京都市社会課	昭10	五,〇〇〇
85	少年不良化問題の理解US児童局版京都市児童課	昭10	四,〇〇〇
86	アメリカの民主主義の諸相 松下松寿他 日外政協会	昭21	五,〇〇〇
87	雑誌創元二巻三号 No31二号 在本十二冊	昭16	六,〇〇〇
88	日本歴史 上・下 玉城肇	昭23	五,〇〇〇
89	数学三十題上 横本和 尾関正求	昭26	四,〇〇〇
90	小学引込入体問答全 和題空欠 松川羊山	昭9	八,〇〇〇
91	明治会玉編大全 完 和横本 田中正治郎	昭38	五,〇〇〇
92	新教科書の批判と研究一、二部 日教組	昭26	二六,〇〇〇
93	師範歴史 本科用巻一 文部省	昭20	四,〇〇〇
94	日本歴史 上・下 文部省	昭22	六,〇〇〇
95	普通教育学 検定済 小川正行他	昭10	三,五〇〇
96	師範学校 作法教授要項 文部省調査	昭45	三,五〇〇
97	高等科国語 二学年前期用 文部省	昭21	三,〇〇〇
98	尋常小学校地理書附図 文部省	昭6	二,五〇〇
99	摘要西洋史地図 村川堅固	昭8	二,五〇〇
100	普通教育世界地図 検定済 山崎直方	昭4	三,〇〇〇
101	初等教育研究会要項 日本精神教育研究	昭10	五,〇〇〇
102	新案英語絵単語 図絵共一冊 リップマン	昭42	六,〇〇〇
103	算学稽古大全 松岡常八 天保版 虫あり	昭6	六,〇〇〇
104	消息案文全 和横本 黒沢翁満 天保版	昭6	六,〇〇〇
105	学習法 沢柳政太郎	昭42	六,〇〇〇
106	古状揃餘師 全和 小島棟吉	昭14	八,〇〇〇
107	軍隊内務書第二版 和 小島棟吉	昭37	八,〇〇〇

石川古本店

電話(〇七五) 七一一五四二九
振替 京都 七一一三〇八九

〒606 京都市左京区一乗寺里ノ前町24-12

1	革命後のロシア文学 昇曙夢 改造社	昭3	四、五〇〇
2	ロシア社会運動史序説 森川博 近代文庫	昭23	一、〇〇〇
3	ロシア文芸思潮 昇曙夢 壮文社	昭23	三、五〇〇
4	ロシア文学研究①③ ソヴェト研究者協会	昭21各二、五〇〇	
5	ロシア年代記 除村吉太郎 弘文堂	昭21	八、〇〇〇
6	シベリヤ年代史 吉村柳里 日本評論社	昭18	一、五〇〇
7	ブレハーフ階級社会の藝術 藏原惟人 藝文閣	昭4	五、五〇〇
8	神の怒めの書 相原信作 筑摩	昭24	三、〇〇〇
9	国際反ファシズム文化運動(フランス篇)新村猛 伊藤聖共譯 金鈴社	昭14	一、八〇〇
10	ロレンス文学論 シェリフ著 西谷啓治譯 世界文学社	昭23	二、五〇〇
11	人間の自由の本質 木村素衛 能楽書林	昭22	三、〇〇〇
12	形成的自覚 個性復興 佐々木基一	昭23	三、〇〇〇
13	文勢論集 太宰施門 高桐書院	昭21	四、五〇〇
14	ブルジョエ前後 第一巻 新潮社	昭22各四、五〇〇	
15	サンクトプウヴ選集 第二巻 新潮社	昭24	二、五〇〇
16	現代作家 福田恆存 中央谷論社	昭23	二、五〇〇
17	作家の態度 福田恆存 巧藝社	昭25	五、〇〇〇
18	硯友社の文学運動 杉村廣蔵 岩波	昭16	四、五〇〇
19	支那の現實と日本 太田宇之助 日本評論	昭15	四、〇〇〇
20	新支那の誕生 神谷海平著 有馬健之助	昭12	一、五〇〇
21	支那時文研究 朝日時局読本 ①	昭12	一、五〇〇
22	移り行く支那 石塚忠 日蒙貿易協会	昭5	二、五〇〇
23	旅順戦蹟志(附函付)弦木梯次郎 川流堂	昭6	二、五〇〇
24	謎の蒙古 田中末廣大阪屋号書店	昭3	八、〇〇〇
25	満蒙の産業研究 福田新成(蔵書印有り)	昭17	三、五〇〇
26	拓け行く満州 房田幸生 有光社	昭18	二、五〇〇
27	民族の慟哭 大谷光瑞 章華社	昭9	八、五〇〇
28	蘭領東印度地誌 堀経夫 章華社	昭9	八、五〇〇
29	英吉利社会経済史 河野省三 中央公論	昭19	八、五〇〇
30	神道史の研究 木村久一 心理学研究会	大7	一、〇〇〇
31	早教育と天才 渡部政盛	大15	二、五〇〇
32	新カント派の哲学とその教育学説 渡部政盛	大13	二、五〇〇
33	プラグマチズムとその教育学説 渡部政盛		

沢田書店

電話(〇七五) 四五一〇五三三
振替 京都 一七六四〇

〒602 京都市上京区烏丸通今出川上ル
同志社正門前

1	南蠻広記 正統二冊新刊出函付 岩波書店	大14	四、〇〇〇
2	南蛮更紗 新刊出 初版函付 改造社	大13	三、五〇〇
3	南国巡礼 新村出 初版函付 梓書房	昭5	七、五〇〇
4	史伝叢考 新村出 初版函付 楽浪書院	昭9	七、五〇〇
5	典籍叢談 新村出 初版 萩原星文館	昭18	四、五〇〇
6	檀 贈呈署名入 新村出 初版函付 靖文社	昭15	五、〇〇〇
7	日本晴 随筆 新村出 初版函付 靖文社	昭17	三、〇〇〇
8	ちぎれ雲 装幀李太郎 新村出 初版函付 甲島書林	昭17	二、五〇〇
9	南方記 新村出 初版函付 明治書房	昭18	四、〇〇〇
10	あけぼの装幀津沢介 新村出 初版クハ付 大八洲出版	昭22	二、〇〇〇
11	同志社卒年小史 同志社 函付 非売品	昭40	三、〇〇〇
12	新島先生書簡集 続 年譜入 函付 同志社	昭35	四、五〇〇
13	新島先生と徳富蘇峯 森中章光 函付 同志社	昭38	一、五〇〇
14	通俗基督伝 山室軍平 初版 救世軍本営	大2	一、二〇〇
15	毛皮著たワイナスマン 佐藤初版函付 講談社	昭22	四、〇〇〇
16	演劇の理念 フラガリン山間訳 初版 未来社	昭33	三、〇〇〇
17	アメリカの演劇 大島横尾訳 初版函付 文芸堂	昭44	三、〇〇〇
18	考案録事文入趣味 中田勇次郎 カハ付 弘文堂	昭18	五、〇〇〇
19	随筆風俗帖 木版手摺和紙 木村莊八 限定本 双雄房	昭17	三、〇〇〇
20	骨董裏おもて 広田不孤 初版函付 タウツド社	昭32	一、五〇〇
21	芭蕉随想あした夕べに 薪原井泉水 初版 偕成社	昭33	一、五〇〇
22	訳文大日本史 世界大思想全集二期五冊揃 春秋社	昭4	二、五〇〇
23	ギボン 羅馬衰亡史 大思想全集二期四冊揃 春秋社	昭4	二、五〇〇
24	佛蘭西革命史 大思想全集二期二冊揃 春秋社	昭4	一、〇〇〇
25	英国社会主義史 大思想全集二期一冊揃 春秋社	昭4	二、〇〇〇
26	智山瑤光 非売品 映入 智林社	昭8	一、〇〇〇
27	仏教の原理 大谷光瑞 大乗社	大13	一、〇〇〇
28	純情の人々 藤秀環 百華苑	昭22	一、〇〇〇
29	純情の人々 藤秀環 百華苑	昭22	一、〇〇〇
30	布施行者風田本真尼 藤吉慈海 非売品	昭26	一、〇〇〇
31	俗つれづれ 釈瓢斎 函付 人文書院	昭9	一、〇〇〇
32	日本人の誕生 茅原廉太郎 岩波書店	昭21	一、〇〇〇
33	政党政治の将来 フェイテイ小寺鎌吉訳 広文館	大11	一、〇〇〇

山書店

電話(〇七五) 七〇一六六二七
振替 京都 九一六三八四

〒606 京都市左京区北白川久保田町64の5

1	日本映画事業総覧 昭5年版 国際映画通信社	昭	二、〇〇〇
2	映画教育講座 全日本映画教育研究会編	昭17	六、〇〇〇
3	活映教育研究 第一輯 水野新幸	昭6	六、〇〇〇
4	ロースン・映画芸術論 岩崎利訳	昭42	六、〇〇〇
5	マンヴェル・映画の基礎理論 井上勇訳	昭26	一、八〇〇
6	映画芸術史 岩崎利	昭5	四、五〇〇
7	映画の経済学 柴田芳男	昭29	二、八〇〇
8	名士・映画を語る 井戸川涉	昭17	一、〇〇〇
9	映画五十年史 菅原恒夫	昭17	一、〇〇〇
10	日本映画論 大日本映画協会	昭18	三、〇〇〇
11	日本映画盛衰記 玉木潤一郎	昭13	三、八〇〇
12	映画演技読本 田中栄三	昭28	一、八〇〇
13	舞台装置の三十年 伊藤喜朝	昭30	五、八〇〇
14	最新映画学読本 大日本映画協会	昭15	二、〇〇〇
15	最新映画監督法 藤本欧谷	昭2	五、〇〇〇
16	マキノ光雄 北川鉄夫	昭33	一、〇〇〇
17	映画自我経 永田雅一	昭32	一、〇〇〇
18	映画道まつしぐら 永田雅一	昭28	一、〇〇〇
19	日本芸術と映画 今村太平	昭16	二、五〇〇
20	夜の芸術 辻久一	昭24	一、五〇〇
21	シナリオ講座 全3冊 シナリオ作家協会編	昭33	二、八〇〇
22	ラジオ・ドラマ講座―脚本作法総論― 久保田万太郎他	昭27	一、五〇〇
23	小形活動写真術 上下 吉川速男	昭4	五、〇〇〇
24	幼燈教育の指針 青地忠三	昭24	一、八〇〇
25	松竹関西演劇記 日比繁治郎	昭16	三、〇〇〇
26	近代俳優術 上下 千田是也	昭34	一、八〇〇
27	随筆寄席風俗 正岡容	昭18	三、〇〇〇

八木書店古書部

電話(〇七五)八一三三九〇

〒604 京都市中京区丸太町通千本西入南側

1	雑誌芸文バラ	45冊	京大文学会	明45、八、〇〇	
2	哲学研究バラ	10冊	京大哲学部	大10、昭18、〇〇	
3	天測曆	昭21、22、二冊	水路部	昭19、21刊、八、〇〇	
4	酒類試験報告第3号		台湾総督府専売局	昭8、五、〇〇	
5	第15回日本医学会総会学術発表演説要旨			昭34、三、〇〇	
6	音声学協会会報51号、バラ4冊		会長新村出	昭13、14、二、〇〇	
7	放送言語理解尺度設定の基礎的研究		ガリ版	昭26、二、〇〇	
8	放送台本の書き方メレディス講義ガリ版15頁			昭26頃、〇〇	
9	建設省直轄工事第9回技術研究報告		建設省	昭32、五、〇〇	
10	武庫川女子大文学紀要第9集		大西正三編	昭37、二、〇〇	
11	埼玉県総合農林業振興計画		埼玉県	昭33、三、〇〇	
12	祥雲11号		美濃尼衆学林創立50周年記念	昭9、二、〇〇	
13	災害科学研究所第一部研究報告4、5号		2冊	昭15、八、〇〇	
14	漢学一巻3号		育英社刊	明43、二、〇〇	
15	兵庫県史蹟并天然記念物図版入景刊表紙欠			大15、三、〇〇	
16	大雅堂中心に大雅研究発表5		王維持輯人見少華	昭16、二、〇〇	
17	ミユウス一巻3号		バラ15冊	京都府アポロン社	大14、三、〇〇
18	京都府立図書館善本目録和漢古写本ガリ版			昭29、二、〇〇	
19	考古学9巻6号		高麗寺創立の研究	昭13、二、〇〇	
20	風景7巻11号		聖地風景特輯	昭15、二、〇〇	
21	外国学術雑誌目録		文部省内学術研究会編	大12、八、〇〇	
22	第5回内閣勲章博覧会審査報告第6部巻4			明37、三、〇〇	
23	世界農業調査資料台湾総督府民政部殖産局			大元、八、〇〇	
24	最近三年以後の古語研究統編高畑次郎学報支部			大3、二、〇〇	
25	和歌浦海岸災害復旧誌		県土木課裏表紙欠	昭25、三、〇〇	
26	宇部市市勢要覧			昭25、三、〇〇	
27	日本学術協会報告		昭11、12、13年度一括	昭27、五、〇〇	
28	林業日本新聞録		林業日本新聞社刊	昭27、五、〇〇	
29	富山農業名鑑		家庭業新聞社刊	昭37、三、〇〇	
30	大豆とその利用		東大 増野実	昭25、三、〇〇	
31	昭和4年臨時広島県会議案			昭25、五、〇〇	
32	研究報告書第4回京大総合研究体制ガリ版45頁			昭21、二、〇〇	
33	復興局道路土工事設計基準并工事仕様書集			昭6、五、〇〇	

34	和歌山県の農業		県統計課	昭32、三、〇〇
35	尼崎市身体障害者実態調査報告書		尼崎市書庫	昭33、三、〇〇
36	益虫輸入関スル報告		台湾総督府民政部殖産局	大6、三、〇〇
37	被保護世帯生活実態調査報告		東京都民生局	昭31、五、〇〇
38	農地経営分舎事例愛知県幡豆郡一色町愛知県			昭27、三、〇〇
39	農地経営の先進地実態調査成績5分冊滋賀県			昭34、三、〇〇
40	西欧諸国通貨交換性回復その内容企画庁調査			昭34、三、〇〇
41	海外農業情勢第一号		農林大臣企画室	昭32、三、〇〇
42	我國健康保険制度諸問題		尼崎市社会保障資料	昭32、三、〇〇
43	著作権に関する資料(一)		日本図書家協会	昭37、三、〇〇
44	歩合制は共同経営なりや		あぐり巾着漁業労働	昭25、三、〇〇
45	大蔵経27号、30号		東大寺図書館蔵目録	明37、三、〇〇
46	身延山祖廟奉仕の菜		久遠寺内奉仕会	昭12、三、〇〇
47	帝都大震災系統地図并解説索引		大虫傷	大12、三、〇〇
48	寧楽写経		田中塊堂 初版	昭22、二、〇〇
49	名家歴訪録上巻		初版京画家美術家訪問記	明32、三、〇〇
50	今出川右中中将伊李郷筆		消息一紙	三、〇〇
51	烏丸大納言光祖卿筆		天許候珍重云々一紙	三、〇〇
52	烏丸大納言資重卿筆		勅許候云々一紙	三、〇〇
53	勅修寺経逸卿筆		宣書一紙	三、〇〇
54	葉室石大辨頼熙卿筆		消息一紙	三、〇〇
55	中山前大納言忠尹公筆		除版出仕仰出候一紙	三、〇〇
56	園太夫基理卿筆		聖於般若院御法会参任一紙	三、〇〇
57	日野中納言資愛卿筆		白馬節会御参之事一紙	三、〇〇
58	葉室石大辨頼熙卿筆		除版出仕宣下候一紙	三、〇〇
59	醍醐中納言輝久卿筆		和歌一紙	三、〇〇
60	兼深卿筆		和歌一紙	三、〇〇
61	藤波神祇教忠卿筆		醍醐殿消息一紙	三、〇〇
62	久世三位通輝卿筆		醍醐大納言殿仰出候虫入一紙	三、〇〇
63	醍醐中納言資重卿筆		消息一紙	三、〇〇
64	日野中納言資友卿筆		和歌一紙	三、〇〇
65	唐橋三位在廉卿筆		女御准后宣下勅書之事一紙	三、〇〇
66	広橋前大納言胤定卿筆		消息一卷	嘉永3、三、〇〇
67	北小路松光卿筆		和歌2首	宮中重陽御会
68	色紙楮彈正雅卿筆		堀金の煙は和歌一首	昭29、三、〇〇
69	毎日グラフ		2冊	昭29、三、〇〇
70	アサヒグラフ		5冊	昭28、29、三、〇〇
71	廣州出土古瓦一個并廣州皇龍寺臨海寺拓本		5紙	五、〇〇
72	算法録		奈良京屋写本	江戸末、二、〇〇

73	連歌師里村昌程筆		連歌一紙	興福寺文書 寛文頃、八、〇〇
74	神原若山筆		桔梗の図一紙	しのみ有 三、〇〇
75	奈良中辻町魚太		茶碗むし外食事値段表一紙	江戸末、三、〇〇
76	俳諧の連歌		2紙	雅石并如風 享和3、三、〇〇
77	老アナキスト岩佐佐太郎妻文技筆		翰一通	昭24、三、〇〇
78	日本アナキスト連盟ニュース第一号			昭21、三、〇〇
79	聯盟ニュースNo.2		日本アナキスト聯盟準備会	昭21、三、〇〇
80	ガイドブックテイチリン印刷本英文			一、五、〇〇
81	数内紹智筆書状一通		寛吉鶴3羽斗相願	明治初、三、〇〇
82	画伯川村曼舟筆		年賀状ハガキ一通	大6、三、〇〇
83	市河米庵筆		名三亥 扇子一本	画賛虫入文花13、二、〇〇
84	大平洋戦筆名		聯合軍民間情報局資料中屋	昭21、二、〇〇
85	孝女都禮粧本		版京都孝行娘相撲見立番附一紙	明20、一、〇〇
86	袖珍御規則集		二冊	遠藤茂平輯 明7、8、五、〇〇
87	大坪流百箇条乘馬目録		一卷	乘馬秘伝歌有 江戸末、五、〇〇
88	宗吾靈堂再建設計図		百分ノ一千葉東勝寺	明治中、二、〇〇
89	西国巡礼歌		京四糸寺町吉野屋板	文政9、二、〇〇
90	稲垣武十郎筆書翰一通		津山入江戸鬼平坂住伯庵門	三、〇〇
91	黄檗沙門性澈筆		固号に対する謝状一紙	寛文13、二、〇〇
92	岩井武俊筆		信長秀吉花押ハガキ一枚	明44、二、〇〇
93	辻善之助筆		絵ハガキ一枚	明39、二、〇〇
94	田中青波筆		西洞院御池住夢二風美人画ハガキ稿	明44、二、〇〇
95	乘馬秘伝書		2巻	越州吉川一貫筆初虫入傷 文化6、一、〇〇
96	新撰甚経大全		小本合本	秋山仙朴焼傷有 享保5、三、〇〇
97	市河米庵筆		名三亥大幸長太夫加賀人宛消息一紙	五、〇〇
98	飯田助左衛門書状			江戸末、三、〇〇
99	春塘筆		句稿一通	山崎不例庵宛添状共 三、〇〇
100	前田梅洞筆		横物一紙	福井藩士儒者虫入 安政3、翌、三、〇〇
101	妙法蓮華経観世音普門品		五首細川藤季筆虫入傷	明2写、二、〇〇
102	小川二六從軍北越戰爭詩		5首	明元 明2写、二、〇〇
103	短冊小川千襲筆		元禄盆踊之図	八、〇〇
104	南画家岡文清筆		七言絶句入書翰一通	昭初、三、〇〇
105	大般若経一卷		大虫入大和國春日社経平安期写経	三、〇〇
106	前大和守利以筆		消息一紙	三、〇〇
107	嶋津和泉筆		勤王家松出敬白写書	文久2、二、〇〇
108	伝録天長地久之璧		勤王家松浦豊齋肉筆	文久3、二、〇〇
109	色紙仏国美術大家ブラッセル氏筆		騎馬画	大4、五、〇〇
110	色紙佛庵和尚筆		東大明後師筆	聖護院光遍上人各 五、〇〇
111	色紙荒井草雨筆		花之図	三、〇〇

〒600 京都市下京区仏光寺通東洞院角

シルヴァン書房

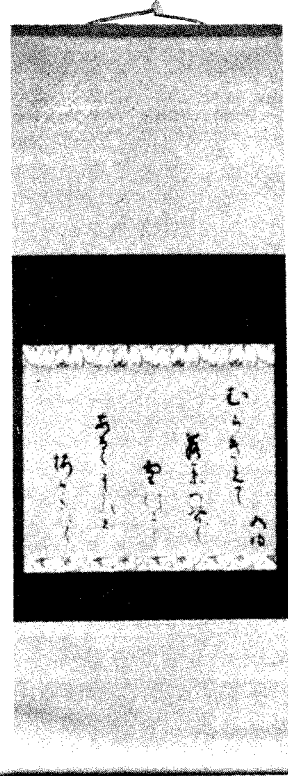
電話(〇七五)三四一七八七九三
振替 京都 一〇七九三三八

- 1 獨チベットの冒険 S.V.ヘーデン著 一九六二 一八,〇〇〇
- 2 仏エジプトのカルナク J.ロフレイ著 一九七九 六,五〇〇
- 3 仏アキタイのガロ・ロマンの陶器 M.ヘレン著 一九七九 六,五〇〇
- 4 英古代中国芸術史 O.シレン 全4冊 一八,〇〇〇
- 5 英南印度、ジェナ教芸術の展望 C.シバラマムルチ 一九七三 三,〇〇〇
- 6 英ジェナ教宇宙観 L.クマール著 色図多シ 一九六三 三,〇〇〇
- 7 米エトラスカン M.スプレレンジャー/G.バートロニ M&Aハーマー写真 一九七三 二四,〇〇〇
- 8 米漢王朝 M.P.セルス著 一九七三 二四,〇〇〇
- 9 仏コプトの織織と裂地 H.エルンスト著 色図Ca 一九七三 二四,〇〇〇
- 10 仏モロッコ陶器 A.ソコバザ三色図 一九七三 二〇,〇〇〇
- 11 米アジア A.フェアサーヴィス 一九六二 二五,〇〇〇
- 12 獨プロペラエン版 芸術史 増補改訂版 全17冊 四〇,〇〇〇
- 13 獨中国芸術 R.フライ/L.ビニヨン 一九七〇 八,〇〇〇
- 14 獨中国と日本の美術愛好家の探訪 O.フイツシャー 一九七〇 八,〇〇〇
- 15 獨東洋芸術に於ける仏陀 W.コーン著 ライプチヒ 一九七〇 三〇,〇〇〇
- 16 仏仏国のロマネス教会のフレスコと絵画 ウェットスタイン 一〇三頁 毛色図 一九七〇 五,五〇〇
- 17 仏キプロスのサラミス島 T.オジヤル 一九七〇 三,二六頁
- 18 米マゴロビル版 世界美術百科 全15冊 一九五九 一六六・一六〇,〇〇〇
- 19 仏スリランカの洞窟画 R.パンジャ 英語版 一九六二 一八,〇〇〇
- 20 仏アッスール A.パロ ガリマール 一九六二 二二,〇〇〇
- 21 仏中世末よりビザンチン期の裝飾壁画 T.ベルマン著 三九頁 一六挿図 一九七三 三〇,〇〇〇
- 22 仰オリッサのパタチトラス 現代印度染織工芸研究 英語 B.C.モハント著 一九六〇 六,〇〇〇
- 23 獨アルカディエン P.メイザク著 一九六二 一〇,〇〇〇
- 24 佛古代ローマからベニスの吹きガラス G.マリアシエー著 八四図色刷、五九図白黒、二四二頁 一九六二 二四,〇〇〇
- 25 米プレロンピア芸術 J.A.フランク I.M.パリス英訳 三〇五頁、一七原色図 N.Y.ABRAMS 一九六三 三三,〇〇〇
- 26 朝鮮の裝飾工芸カラバラスca. 一九六〇 二〇,〇〇〇
- 27 仰印度の裝飾デザインと工芸技法 E.フハブナニ 英語版 一九七四 七,五〇〇
- 28 英現代絵画史シリーズ スキラ英語版 ビカンからシュールリアリズムM.レイナル 一九七〇 二〇,〇〇〇
- 29 英マチス、ムンク、ルオー M.レイナル 一九七〇 二〇,〇〇〇
- 30 獨E.F.U.R.M.A.N.N著作全集 全17冊 AURIGA VER 一九七〇 七〇,〇〇〇
- 31 仏V.H.U.G.O.全作品集 全19冊 G.I.R.A.R.D.・B.O.I.T.T.E出版 ビクトルユゴー全作品集 パリ 一九三二 三〇,〇〇〇
- 32 仏画家 彫刻家 版画家辞典 増補改訂 全10冊 BENEZIT編著 パリ 一九七六 八五,〇〇〇
- 33 獨小供劇場を通じて見る劇場史 G.ガルド著 一九七〇 二五,〇〇〇
- 34 昔の子供のおもちゃステュディオ特別号 一九七〇 九,五〇〇
- 35 仏18世紀家具 作品と記号 C.F.サルワルト 一九七〇 六,五〇〇
- 36 獨彩色空間芸術 百二十図原色C.H.ペーカー 一九七〇 一三,〇〇〇
- 37 獨イタリアルネッサンス期建築 H.ウイリッヒ他 一九七〇 八,〇〇〇
- 38 獨美術館展示室技術 三〇図 M.プラーウ 一九七〇 八,〇〇〇
- 39 獨飛行場 E.G.プランケンシツプ 一九七〇 五,〇〇〇
- 40 米F.L.ライト ドロインング 一九六二 三,五〇〇
- 41 米南部植民地風建築 R.F.ホワイトヘッド 一九七〇 二,五〇〇
- 42 英テント建築 P.ドリュユー 一九七〇 二,〇〇〇
- 43 米売立建築設計 アムバズ他 一九七〇 三,〇〇〇
- 44 獨フランコ アルビニ(建築設計) 一九七〇 四,〇〇〇
- 45 獨17・18世紀のドイツ陶磁 コーシ他・H.フッシュ 一九七〇 三,〇〇〇
- 46 米英国カメオガラス レイノグロバー共著 一九六〇 三,〇〇〇
- 47 獨ガラス芸術五百年 クレッセ ABC社 一九六二 二〇,〇〇〇
- 48 獨デルフトウエア H.P.フレスト著 一九六二 二〇,〇〇〇
- 49 仏セーヴル 起源と今日 プルネノ・アレド共著 一九六二 三〇,〇〇〇
- 50 米アメリカの時計 デイステイン他 N.Y. 一九七六 八,〇〇〇
- 51 米アメリカの収集物カタログ W.C.ケッチャム 一九七九 四,〇〇〇
- 52 米G.ワシントンの中の中国陶器 S.G.デトワイラー他 一九六三 八,五〇〇
- 53 米小物骨董百科 J.マツケイ 一九七五 五,〇〇〇
- 54 仏世界の仕込み杖 C.ダイク 図版多シ 一九六二 一〇,〇〇〇
- 55 獨陶彩(タイル) A.ピカ 一九七〇 八,〇〇〇
- 56 英タイル通史 A.ベレンドセン他 一九七〇 六,〇〇〇
- 57 仏裝飾芸術史 H.モラン 一九七〇 二〇,〇〇〇
- 58 米サレムのコロニヤル建築 M.リリー 限定千部 一九七二 二〇,〇〇〇
- 59 英ボヘミアン彫ガラス Z.ペザトールヴァ 一九六六 八,〇〇〇
- 50 米世界の家具 第三版 H.ヘイワード 一九六九 七,五〇〇
- 61 英ビクトリアンタイル収集 A.ロケット 一九六〇 六,〇〇〇
- 62 英ビクトリアンテールブルグラス B.モリス 一九七六 六,五〇〇
- 63 伊家具史 G.ビナーノ 一九七六 一五,〇〇〇
- 64 英室内裝飾史 C.マコルクダール 一九七三 一七,〇〇〇
- 65 仏第二皇帝様式 P.ジュリアン 図版多シ 一九六〇 二二,〇〇〇
- 66 仏ルイ15世様式 G.マビル 図版多シ 一九六〇 二二,〇〇〇
- 67 仏近代様式アールヌーボー L.B.シャリール 図版多シ 一九六〇 二二,〇〇〇
- 68 仏皇帝と王政復古期様式 S.シャドネ 図版多シ 一九六〇 二二,〇〇〇
- 69 仏フランス家具 P.クジエルベグ 2冊 一九六〇 三,〇〇〇
- 70 米アールヌーボー様式 L.B.シャリール 一九六二 五,〇〇〇
- 71 英椅子 骨董図書 T.ジョイ 図多シ 一九六〇 二五,〇〇〇
- 72 米チエッソウヴァキーの民家L.ポルティン独語 一九六〇 六,〇〇〇
- 73 英古い宝飾品T/H版 E.スタイングレバー 一九七〇 八,〇〇〇
- 74 米W.モリスの染織 L.ペリー 一九六三 二二,〇〇〇
- 75 米英国陶器と磁器(初版五三)P.アッタプリー 一九七六 二,五〇〇
- 76 仏19世紀フランス装身具 H.ペベル複製版佛 一九七六 六,〇〇〇
- 77 米19世紀陶磁器 フェイヨール/ムント共著 一九六三 三,五〇〇
- 78 米アメリカのしるめ細工師とマーク ローリン著 一九六二 一五,〇〇〇
- 79 獨カッセル磁器 M.ヴァイネルト 一九六〇 六,〇〇〇
- 80 英ソビエトのガラス 英独仏語N.ウオロフ他 一九七三 三,五〇〇
- 81 仏ソビエト革命期の染織 I.ヤシンスカヤ 一九六三 八,〇〇〇
- 82 仏ソ連の記念建造物 一八〇頁 一〇二〇 キリチエンコ 露英 一九七〇 一五,〇〇〇
- 83 獨アールヌーボー期のガラスカイザー収集図多 一九七〇 三,五〇〇
- 84 仏ルイ16世様式 P.ジュリアン 図版多シ 一九六二 二二,〇〇〇

文藻堂

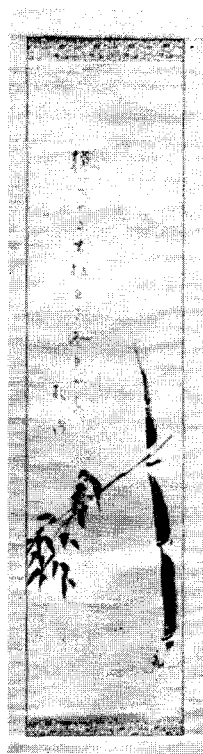
〒604 京都市中京区新烏丸通竹屋町上ル
電話(075)231-1914 振替 京都8-615

1 太田水穂 短歌幅 絹装(37×28浬) 桐箱入
むらまえて落葉の谷は雪すこし あるだにうれし梅ときにけり 水穂



六〇,〇〇〇円

2 岡本松浜賢 岡本辭三醉画 竹三雀画賢 裂装(30×128浬)桐箱入
撒いてやる米粒白き冬日かな 松浜 醉画(淡彩)



五〇,〇〇〇円

3 高浜虚子 短冊 地に道ひし菊起しはく無哉
八〇,〇〇〇円



4 河東碧梧桐 短冊 牛を走らす影に融れ来ぬぼる朝
二五,〇〇〇円



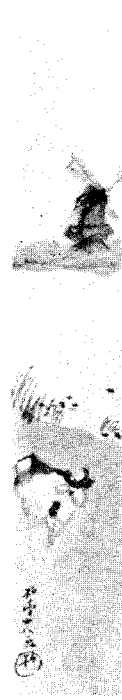
5 青木月斗 短冊 噂が喜ぶ程の小西哉
一五,〇〇〇円



6 喜谷六花 短冊 日遠く桑きる二人の髪
一一,〇〇〇円



7 石井柏事 風景画短冊 淡彩
一〇,〇〇〇円



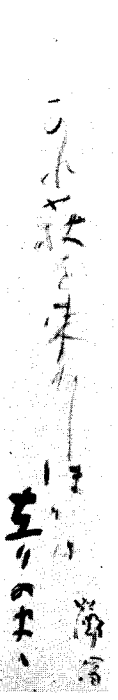
8 松瀬青々 短冊 勅題 民安く田面の雪を御代の花
八,〇〇〇円



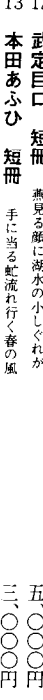
9 内藤鳴雪 短冊 陽炎や砂に埋まる大礎
八,〇〇〇円



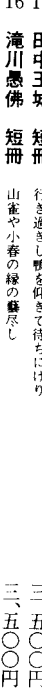
10 岩木麗陽 短冊 かれ萩を束ねしはがは在りのま、
七,〇〇〇円



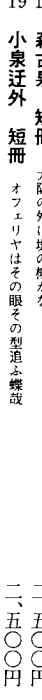
11 大橋桜坡子 短冊 花衣ひまざり離す電話かな
六,〇〇〇円



12 武定巨口 短冊 燕見る顔に湖水の小しくれが
五,〇〇〇円



13 本田あふひ 短冊 手に当る虹流れ行く春の風
三,〇〇〇円



14 松尾いはほ 短冊 春の夜の浮かれ心を許さずや
三,〇〇〇円



15 田中王城 短冊 行き過ぎし鶴を仰ぎて待ちにけり
三,〇〇〇円



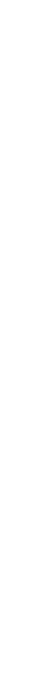
16 滝川愚佛 短冊 山雀や小春の縁の暮尽し
三,〇〇〇円



17 皿井旭川 短冊 松の中風にもまれて山桜
三,〇〇〇円



18 森古泉 短冊 大阪の外に堤の柳かな
二,五〇〇円



19 小泉迂外 短冊 オフエリヤはその眼その型追ふ蝶哉
二,五〇〇円



〒604 京都市中京区河原町通六角下ル

赤尾照文堂

電話(〇七五)二二二一五八八
振替 京都 三三三二六

33	バルザック	ツヴァイク	水野亮	昭34	五〇〇〇
32	バルザック以後	若園清太郎	大観堂	昭16	二〇〇〇
31	バルザック研究	太宰施門	山口書店	昭18	二〇〇〇
30	バルザック研究	太宰施門	教育図書	昭15	一八〇〇
29	ルソーよりバルザックへ	太宰施門	太宰施門	昭9	二四〇〇
28	アンリ・ブロンテ	パスカル	森有正	昭22	三九〇〇
27	田舎の友への手紙	パスカル	森有正	昭14	三九〇〇
26	アンリ・ブロンテ	パスカル	森有正	昭22	三九〇〇
25	モリエール	辰野・本田	創元社	昭23	二〇〇〇
24	フランス文学	斎藤磯雄	新潮社	昭30	九六〇
23	フランス文学	斎藤磯雄	新潮社	昭30	九六〇
22	フランス文学	斎藤磯雄	新潮社	昭30	九六〇
21	心理と方法	安藤正瑛	関書院	昭40	五八〇〇
20	心理と方法	安藤正瑛	関書院	昭40	五八〇〇
19	エマソンとその	渡辺一夫	渡辺一夫	昭39	五〇〇〇
18	エマソンとその	渡辺一夫	渡辺一夫	昭39	五〇〇〇
17	エマソンとその	渡辺一夫	渡辺一夫	昭39	五〇〇〇
16	砂漠の中心	エリオット	寺田建比古	昭38	七〇〇〇
15	砂漠の中心	エリオット	寺田建比古	昭38	七〇〇〇
14	性・文学・検閲	福田恒存	新潮社	昭31	七八〇〇
13	性・文学・検閲	福田恒存	新潮社	昭31	七八〇〇
12	性・文学・検閲	福田恒存	新潮社	昭31	七八〇〇
11	印象と研究	瀧山季乃	篠崎	昭14	四五〇〇
10	印象と研究	瀧山季乃	篠崎	昭14	四五〇〇
9	印象と研究	瀧山季乃	篠崎	昭14	四五〇〇
8	印象と研究	瀧山季乃	篠崎	昭14	四五〇〇
7	印象と研究	瀧山季乃	篠崎	昭14	四五〇〇
6	印象と研究	瀧山季乃	篠崎	昭14	四五〇〇
5	印象と研究	瀧山季乃	篠崎	昭14	四五〇〇
4	印象と研究	瀧山季乃	篠崎	昭14	四五〇〇
3	印象と研究	瀧山季乃	篠崎	昭14	四五〇〇
2	印象と研究	瀧山季乃	篠崎	昭14	四五〇〇
1	印象と研究	瀧山季乃	篠崎	昭14	四五〇〇
34	真視の人	ベガ	西岡範明	昭48	六〇〇
35	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
36	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
37	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
38	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
39	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
40	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
41	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
42	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
43	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
44	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
45	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
46	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
47	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
48	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
49	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
50	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
51	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
52	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
53	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
54	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
55	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
56	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
57	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
58	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
59	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
60	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
61	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
62	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
63	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
64	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
65	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
66	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
67	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
68	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
69	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
70	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
71	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
72	アレクサンダー	ベガ	筑摩	昭46	二〇〇〇
73	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
74	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
75	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
76	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
77	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
78	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
79	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
80	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
81	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
82	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
83	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
84	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
85	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
86	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
87	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
88	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
89	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
90	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
91	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
92	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
93	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
94	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
95	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
96	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
97	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
98	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
99	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
100	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
101	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
102	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
103	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
104	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
105	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
106	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
107	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
108	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
109	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
110	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇
111	ジャン・パロアの生涯	ガール	青柳瑞穂	昭28	三〇〇〇

〒604 京都市中京区河原町通三条上ル

(朝日会館前)

キクオ書店

電話(〇七五)一三二一七六三
振替 京都 一七六四〇

移民・殖民関係資料特集(付)世界旅行記

- 外交志稿 本文・年表篇 外務省二冊 明17 二五,〇〇〇
- 外交読本 榎原勝治 外交時報社 昭2 三,八〇〇
- 民族と人口の理論 小山栄三 羽田書店 昭18 四,〇〇〇
- 近世殖民史 フランケン 帝國地方政学会(ムレ) 大7 五,〇〇〇
- 殖民及植民政策 矢内原忠雄 昭14 六,八〇〇
- 拓務要覽 昭和七八年 拓務大臣官房文書課 昭7 8各八,〇〇〇
- 殖民地要覽 拓殖局 大9 八,〇〇〇
- 植民地農業 伊藤兆司 農業経済講座 叢文閣 昭12 六,〇〇〇
- 海外移住政策史論 若槻泰雄・鈴木讓二 福村出版 昭50 一〇,〇〇〇
- 「海外移住」縮刷版 二冊 創刊号378号 昭54 三,五〇〇
- 海外外国別移民・入国法令総覧 一模範海外渡航案内内 昭11 四,〇〇〇
- 海外発展案内書 美平晴造 日本海外移民協会 昭33 七,〇〇〇
- 移住制限問題に直面して 井上雅二 実業之日本社 昭10 九,〇〇〇
- 湖東移民村の研究 立命大人文研紀要(14) 昭39 六,〇〇〇
- 日米之新關係 高橋作衛 清水書店 昭43 三,〇〇〇
- 米國海運要覽 戸田貞次郎 二里木書店 昭18 八,〇〇〇
- 米國に於いて 日米交渉の回顧 昭21 三,〇〇〇
- 米國見物案内 谷川博 欧米旅行案内社 昭12 四,八〇〇
- 在米日系入収容所名簿 昭19 七,五〇〇
- ゼロサム共同企業組合記念号 騰写刷 極稀 昭19 七,五〇〇
- 全米日系入住所録(二巻) 新日米新聞社 昭40 二五,〇〇〇
- 産業別就業者数 移民帰化法等附録 昭31 三〇,〇〇〇
- 南加州日本人史 南加州商業会議所 昭31 三〇,〇〇〇
- カリフォルニアと日本人 海老名一雄 昭18 三〇,〇〇〇
- アメリカ紀州人材録 稗田秀吉 紀州社 昭31 一六,〇〇〇
- 海を渡つた日本の村 蒲生正雄編 中央公論社 (ステイプストン移民村調査記) 昭37 九,五〇〇
- アメリカ研究論文集 京大アメリカ研究所 昭37 五,〇〇〇
- アメリカの人的偏見―日系米人の悲劇― 昭45 二,五〇〇
- 日米文化接触の研究 昭45 二,五〇〇

―鹿児島県下農民の滞米経験― 京大 昭40 六,〇〇〇

- アメリカの対日世論ターン・マッククレイ・ルツ 昭21 三,〇〇〇
- 米日人系人史 R・A・ウィルソン N・Y 昭44 四,〇〇〇
- 在米日本人長老教会歴史 年会準備委員編 昭44 九,五〇〇
- わが在米開教生活随想 青山徹之 英・和文 昭52 三,〇〇〇
- (英)米國の二世二世B細川書き込み多 N・Y刊 昭40 四,〇〇〇
- アメリカの日系二世B細川書き込み多 N・Y刊 昭40 四,〇〇〇
- 日系市民とYUKI 坂井米夫(移民小説) 昭24 二,〇〇〇
- リトルトウキョウ物語 竹国友康 昭53 二,〇〇〇
- 在米60年の回想附アメリカ日記 三苦藤七芳江 昭45 三,〇〇〇
- アメリカのなかの日本人 H・キタノ 昭49 二,〇〇〇
- 世界を股にかけて 井上雅二 前半身 永見七郎 昭7 九,〇〇〇
- 今なお旅路にありし 或る移民の随想 半田知雄 昭41 二,〇〇〇
- わが半世紀 葉風 古生美男 ハワイ刊 昭37 八,〇〇〇
- ハワイ日本人移民史(増補再版) 昭52 三,〇〇〇
- (英)ハワイ日本人史 昭28 二,〇〇〇
- 五十年間のハワイ回顧 相賀漢芳 昭16 二,〇〇〇
- ハワイの現実 国友忠夫 新日本園叢書 昭46 三,〇〇〇
- アメリカの白い霧 牛島秀彦 虎見書房 昭43 二,〇〇〇
- アメリカ文化素描 はやし・てつまる 垂水書房 昭35 一,〇〇〇
- (英)南米便覧 一五三年版 H・デービス編 昭5 五,〇〇〇
- 南米大陸 A・ボウマン 露崎訳 大日社 昭5 四,〇〇〇
- 世界の国々(13北米(14)中南米 国民図書 昭26 各一,〇〇〇
- 南アメリカ自然と人間 N・H・K特報班 昭39 一,〇〇〇
- 世界の未開拓地 G・キンブル 葛城書店 昭2 二,〇〇〇
- 南米と移民 結城朝八 昭3 一六,〇〇〇
- 南米ニッポン植民地 鈴木健二 昭53 一,〇〇〇
- 海外生活の手引 中南米篇IV 外務省情報 昭55 一,〇〇〇
- 裏から見た地球―南米移住者視察記 石井博一 昭10 一,〇〇〇
- アルゼンチン同胞五十年史 賀集九平 昭31 一六,〇〇〇
- ブラジル日本移民史年表 半田知雄(編) 昭51 五,〇〇〇
- ブラジルの日本移民 一冊 昭39 三,〇〇〇
- ブラジル自作農移住案内 海外移住組合聯合会 昭11 五,〇〇〇
- ブラジル移民としての五十年間 古沢清外 昭37 六,〇〇〇
- ブラジルの日本人 斉藤広志 九善 昭35 五,〇〇〇
- ブラジル輿地行 P・ラレミン 日吉沢 生活社 昭17 三,〇〇〇
- ブラジルの政治 齊藤広志 サイマル出版会 昭51 一,〇〇〇
- 南米の綿花と綿業 下村泰介 日本綿花協会 昭28 四,〇〇〇

- スエズとパナマ 黒木勇吉 図書研究社 昭17 三,〇〇〇
- カリブ海の国々に N・H・K特報班編 昭39 一,〇〇〇
- 墨西哥国石油業大観 長松雪夫 昭14 五,〇〇〇
- グアタレへの聖母メキシコノート 鶴見俊輔 昭51 一,〇〇〇
- 太平洋諸島統計書 大東亜統計研究所 昭18 五,〇〇〇
- 南太平洋の現実と国際協力 アジア太平洋研究所 昭55 六,〇〇〇
- 太平洋時代來る 守屋栄夫 日評 昭3 五,〇〇〇
- 中心と同義語 南洋の五十年 南洋及日本社編 昭13 二八,〇〇〇
- シンガポール 内藤英雄 愛国新聞社出版部 昭16 二,〇〇〇
- 南洋の華橋 南洋協会編 昭15 三,八〇〇
- 滿洲移民 附戦時下の滿洲 スコット 霞ヶ閣出版 昭19 三,〇〇〇
- 滿州移民の村 信州泰幸村の昭和史 昭52 一八,〇〇〇
- 滿州の農業機構 鈴木兵衛 白揚社 昭13 七,五〇〇
- 逃避行―滿洲開拓少年の随想 自立舎 昭51 一五,〇〇〇
- 滿洲随想 あのことの日本人 安住義人 洛文社 昭49 二,〇〇〇
- あ、母なる国―引揚記録 同刊行委員会 昭52 二,八〇〇
- 浪曼者の志気 拓殖大学集團未來篇 島津書房 昭52 一八,〇〇〇
- 欧米印象記 中村吉蔵 春秋社 昭43 六,八〇〇
- 渡米実業団誌 東京商業会議所 春秋社 昭43 一八,〇〇〇
- 両米再巡 永田稠 日本力行会 昭14 三,〇〇〇
- 南米一巡 永田稠 日本力行会 昭15 三,〇〇〇
- あめりか写真紀行 北尾謙之助 盛文館書店 昭15 二,八〇〇
- 米國視察記 山本直次郎(譯) 大日本雄弁会 昭1 四,〇〇〇
- 北米遊記 鶴見祐輔 大日本雄弁会 昭2 三,〇〇〇
- 欧米漫筆 上山柑菊 宝文館 昭2 三,〇〇〇
- 世界遊記―写真と漫談 今村忠助 帝國教育会 昭4 四,五〇〇
- 海外を巡りて 松本勝太郎 日本評論社 昭4 五,五〇〇
- 米國遠征記 腰本寿 慶大野球部 昭4 六,五〇〇
- 世界の最下層を行く 遠藤利男 日本書院 昭5 三,〇〇〇
- 謎の国夢の国(台湾・墨西哥・玖瑪) 佐藤彦平 昭6 六,八〇〇
- 欧米大陸遊記 鶴見祐輔 大日本雄弁会 昭8 五,五〇〇
- 欧米旅行雑感 矢野賢輔 著者歎辞人 昭8 四,八〇〇
- 使命を果して―渡米選手の手記 水泳連盟 昭24 三,五〇〇
- 太平洋越えて 蜂谷経一 商業界 昭40 三,五〇〇

(予告) 当店の「紙魚の便り―人文系和書古書目録」(特に歴史・民俗・東洋関係・明治・産業史・伝記を中心に掲載)を五月末に発行予定。また「特選和洋古書目録―一九八四年―」(洋書を中心に掲載)は残部謹少な在庫。

各一〇〇円(切手可)

諷誦・歎徳・表白・引導

大宝典

釈慶嚴編／格調高い諷誦・歎徳・表白・引導文を容易に作成できるよう、江戸時代から現代までの、全宗派にわたる名作をあつめ、新たな書下し、総ルビで、実用本位に編集。懇切な作例・心構え・異文・語義等の注を付す。僧職者必携の決定版。祭文例大百科！

豪華保存版 三五〇〇〇円

仏像大系

全11巻

国書刊行会編
揃五五〇〇〇円

仏像ごとに、名称・相容・誓願・功德・印相・真言等を平易に解説し、古来よりの相伝・装束・持物等を正確に引用。図で見る仏像篇、諸仏尊および祖師先徳達の像に、儀軌による解説を付した写真集成「写真で見る仏像篇」、印契を図版と儀軌による解説で紹介「図印篇」、用語解説・索引の四部構成の大著！

真宗大系

全61巻

真宗典籍刊行会編
揃二九八九〇〇円

大正五年、真宗大谷派の総力を挙げて真宗典籍刊行会を結成、種々様々な難難辛苦の末、真宗大谷派学匠の講説・述作を編集した一大叢書。読みやすい和話(国文)で書かれた本大系は、真宗研究の基本資料であり、真宗教学集大成の金字塔である。

識緯思想の総合的研究

安居香山編
一、二〇〇〇円

緯書の成立とその展開

安居香山著
一、四〇〇〇円

仏性の研究

常盤大定著
五八〇〇円



国書刊行会 千七百〇〇〇
東京都豊島区巢鴨三五一八 ☎03 917 8287
小社の書籍は注文制です。お近くの書店にお申し込み下さい。

柴山全慶老師輯

訓 禅林句集

A6 四五六頁
一、五〇〇円 千二五〇円

西部文浄著

茶席の禅語

B6 四三六頁
二、五〇〇円 千三〇〇円

仏教書取り揃えております。
葉書にて御照会下さい。

千604 京都市中京区寺町通三条北
其 中

電話(〇七五)二三二二一九七二番
振替 京都 二一五三八番

堂

安田理深選集

全十五巻

A5判 上製帖箱入クロス製

内容

安田理深選集編纂委員会編
野の求道者として生活し、仏道を荷うことの苦難と至楽を身を以て証し通された仏者、安田理深先生。数少ない自筆の論文と講義しつづ思索し、その思索を明晰な言葉で語り、その中で最も力をそがれた講義の四篇を選び、此に選集として刊行。

第一巻 自証の論理 他

第二、七巻 唯識三十頌聴記

第八巻 十地経論聴記

第九、十四巻 願生偈聴記

第十五巻 教行信証聴記

内容見本進呈

千604 京都市中京区 寺町通三条上る 文栄堂書店 振替 京都 8-2948 電話 075-231-4712

国 文 学

能勢朝次著作集 全十巻

能勢朝次著作集編集委員会編
 中世文学、能楽—その大成者世阿弥について最も基礎的な考え方を掘え、連歌、俳諧、芭蕉に関して先駆的な研究をなした著者の論考を全十巻に集大成。
 (「チェック」は既刊)

- 1 国文学研究
- 2 中世文学研究
- 3 近世和歌研究
- 4 能楽研究(一)
- 5 能楽研究(二)
- 6 能楽研究(三)
- 7 連歌研究
- 8 俳諧研究
- 9 俳諧研究(一)
- 10 俳諧研究(二)

▼A5判・平均四八〇頁／定価四、〇〇〇円／六、六〇〇円

名家伝記資料集成

森繁夫編・中野莊次補訂 全五巻 限定出版・好評発売中／残部僅少
 森氏の遺稿「先賢伝記資料」を中野氏が浄書・補訂、新たに索引を作成し、鎌倉末期から昭和二十年迄に没した国学者・漢学者・文人・高僧・芸術家、政治家・志士等、名家四万五千余名の伝記資料を網羅。第五巻には総索引のほか、別号・屋号・別姓・国名称呼を付して検索の便を図った。
 ▼A5判総頁五四〇〇頁／定価二二〇、〇〇〇円／分巻一三〇、〇〇〇円

陽明叢書

記録文書篇 全十巻
 別巻一
 監修 近衛通隆／編集顧問 熱田公・益田宗／編集 (財)陽明文庫

巻	収録内容	冊数
第一輯	御堂閔白記(一)～(五)	全五冊
第二輯	岡屋閔白記・深心院閔白記・後知足院閔白記	全三冊
第三輯	後法成寺閔白記(一)～(三)	全三冊
第四輯	愚昧記・永昌記・大府記ほか	全四冊
第五輯	人・車 記(一)～(四)	全四冊
第六輯	平記・範輔記	全四冊
第七輯	法制史料集	全四冊
第八輯	名家消息集	全三冊
第九輯	紙背文書集(一)～(三)	全三冊
第十輯	所領関係文書集	全三冊
別巻	宮城 図	全一冊

■未刊行史料を中心に史料の価値の高いものを収録。
 ■直接撮影による複製版とし、第一輯以外は横綴。
 ■各輯ごとに書誌を中心とした解説を付す。解説には第一人者の研究者をおとる。
 ※ 第四回配本／四月下旬
 ※ 第一輯 御堂閔白記 四
 以後三か月一冊配本
 平均定価九、八〇〇円
 ■呈内容見本

歴 史

京都中世都市史研究

高橋康夫著／思文閣史学叢書第三輯
 中世京都における都市空間形成過程にかかわる種々の問題を、今日の都市再開発問題をも射程に入れて都市史と建築史の両面から論じた新説の一書。
 ▼A5判・五二〇頁／定価七、八〇〇円

本社 京都市左京区田中閔田町2-7 〒606 (075)751-1781 思文閣出版 支社 東京都千代田区三崎町2-20 〒101 (03)263-6348

書物展望王

齊藤昌三・庄司浅水・柳田泉編
 自創刊号(昭6)～至十八巻(同26年)終刊迄 付著者別総索引

多士済々な執筆陣は当代一流の人物を揃え、その内容も魚書談・蔵書票・装丁・読書随筆・挿絵・翻訳文学等の特集を含み、書物・人物研究・エッセイなどのほか、出版界・古書界の情致にも多彩で詳しく、更に江戸文学をはじめ明治・大正・昭和文学の文献資料も多彩で、読書人・愛書家には必備必読のものといっても過言ではない。

■洋装合本A5判極上バクラム装全26冊定価二五〇、〇〇〇円
 ■3回分割配本／第一回(一～五巻9冊)八〇、〇〇〇円
 3月30日発売／以下5・7月配本

西洋印刷文化史

オスワルド著 玉城 肇訳
 Oswald, I.C. (1886-1933) A History of printing, its Development through Five Hundred Years (1929)

原著者オスワルドはアメリカの印刷学者。本書はアメリカ印刷美術研究所長時代の研究成果をまとめたもので、ブーテンベルクから現代に至る凡そ五百年間の西洋の書物の歴史が詳述されている。

四六倍判・総純白バクラム装・貼箱入
 本文四六六頁・二色刷・特濃中性紙使用
 原色図版四枚・挿図一四〇枚
 豪華版 限定二百部
 定価二〇、〇〇〇円

書物その起源と発達の物語

イーリン著 玉城 肇訳
 Ilin, M. (1896-1963) [英訳] Black on White - the Story of Books (1932)
 原著者イーリンはソ連邦の作家。主著に五ヶ年計画を解説したいくつかがある。本書は一九三二年(ソ連)ソ連社刊の英訳本によられてゐる。

B6判変型・本文一六八頁・挿絵多数
 愛蔵版(上製貼函入) 定価三、五〇〇円
 限定三〇〇部
 普及版(紙装) 定価一、三〇〇円



臨川書店 株式会社 本社 京都市左京区今出川通川端東(075)721-7111 東京支店 東京都千代田区飯田橋4-7-6 (03)263-4320